

常射之卷 六

一貫流射術常射之卷六

目錄

器之部

磔

圖 三指  
多品 四指

早磔

圖 三品

押手

圖 三品

藥煉皮

圖 一品

弓袋

圖 一品

矢袋

圖 三品

弦袋

圖 三品

碟袋

道宝

圖  
一  
品

藤篋

圖  
一  
品

村削具

圖  
二  
品

弓堅

圖  
一  
品

弦枕

圖  
一  
品

腰掛箱

圖  
一  
品

手當

圖  
一  
品

肩當革

圖  
一  
品

張臺

弓臺

圖  
數品

被皮

圖  
二品

弓兩皮

圖  
一品

弓掛

圖  
一品

弓矢臺

圖  
祐方追加百手矢臺圖

百矢臺

圖  
一品

矢屏風

圖  
一品

矢車

圖  
一品

矢取臺

圖  
一品

一貫流射術常射之卷六

器之部

磔 三指四指

流傳曰磔ノ訓詳ナラス。鞞指懸。決捨トモ書タリ

思フ二次將裝束抄 中納言藤原定家卿ノ 二真卷

弓矢也件弓ニ付鞞弓懸トアリ義貞記 新田義貞ノ所記也

鎧可着次第叟ニモ六番弓懸トアリ又吉部秘訓

ニモ弓懸ト記タリユカケハ弓カケノ畧言ナラ

ンカ鷹飼ノ指ス皮袋ヲユカケト云モ弓射ニ懸

ルユカケヨリ移リタル詞ナリ猶能ク知ン人ニ

可尋古代ハ今當ノ如ク堅帽子ノ蹠ハ無之的射  
ニモ一具蹠ノ右計指テ射タリ則高忠聞書別記  
ニ的ゆかけもゆひをつく事畧儀なりとも皮に  
てはつくへしトアリ此的蹠ト云モ一具指ノ右  
ユカケヲ云ナリ今當ノ的蹠ト云ハ三指ヲ云ナ  
リ四指ヲ差矢蹠トモ堂蹠トモ云ナリ如此の蹠  
差矢蹠ノ分ハアレ凡其人々ノ所好ニ任セテ的  
射ニモ四指ヲ用ユル者モアリ別テ強弓ヲ好ム  
射則ハ掛口ヲ深ク強ク大指ニ四指ユヒヲ不殘折掛  
テ懸ル故ニ四指ヲ以テ全利トセリ其制ハ三指

タカヒ

四指ノ差ハ菓指ノ有無ニテ余ハ異ナルヘカラ

ス地ヲ薰革ニシテ手甲ニ家紋ヲ白出タルモア

リ文革ニシテ無紋ナルモアリ或ハ白革ニ金紋

置タルモアリ又ハ紫萌黄淺藍深藍黒等ノ染革

ニテ縫タルモアリ薰革ニモ香子革茶色ニ黒ミ

ナリ又濃薄黄香子革ニ紅ヲ入ハリタルモ有紅栴子ウズ

水ノ卷タル形ニテタトヘハ赤ミアリハ赤ミアリ過卷クル

長キ糸ヲ卷テ平メタル如ク文鶉革是モ文ヲ白

革ナリ今當ウツラ小紋星革小キ丸ク文ヲ

ナト云フ文形ニ似タリ鼠革白ク薰出タリ

此色ハ普ク人、所知ナリナト云類アリ其外櫻

濃胤薄胤アリテ不成一様

水玉草木ノ葉ノ形花ナト薰出シタルモアリ小

水玉草木ノ葉ノ形花ナト薰出シタルモアリ小

児ノ鞆ナトハ地ヲ薰革薰革ニカキラス染ニシ

テ扣ひかへヲ文革地革ニ順帽子ヲ染革地扣ノ色ニシ

テ綵リテ作りタルモアリ蛇腹糸ヲ以テ飭ヲシ

タルモアリ飭ナキモアリ帽子ハ角入帽子牛角ノ先

方ヲ中ヲクリ又キ筒ニスヘシ堅帽子堅ホウシハ鹿皮ヲナリ

形モ尖タルモアリ丸キモアリ一樣ナラズ左ニ

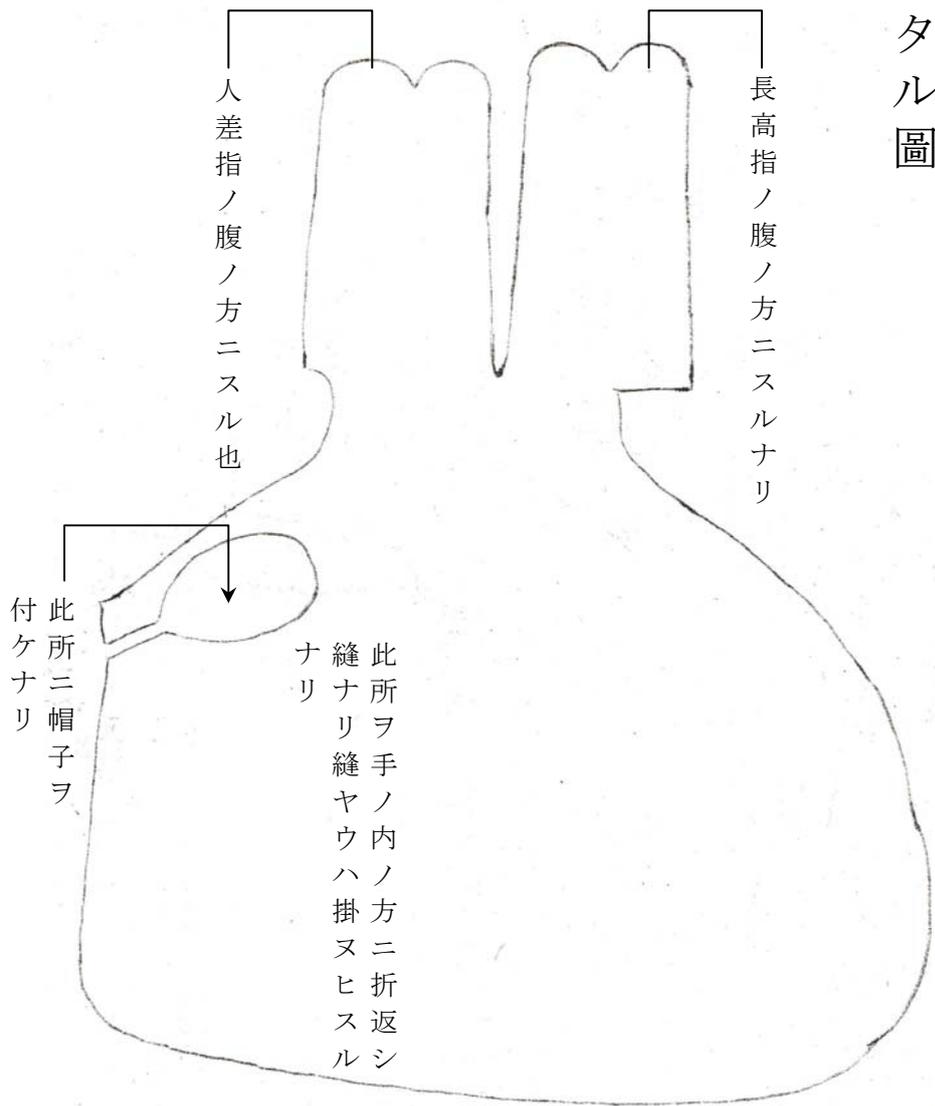
角入帽子的鞆ノ縫様悉々圖ヲ顕シテ記ス一具

鞆ノ裁モ尻ヘニ出タレハ見ヘシ又其主ノ手ノ

大小ニヨリテ高計ノ寸取習アリ面授ナラテハ

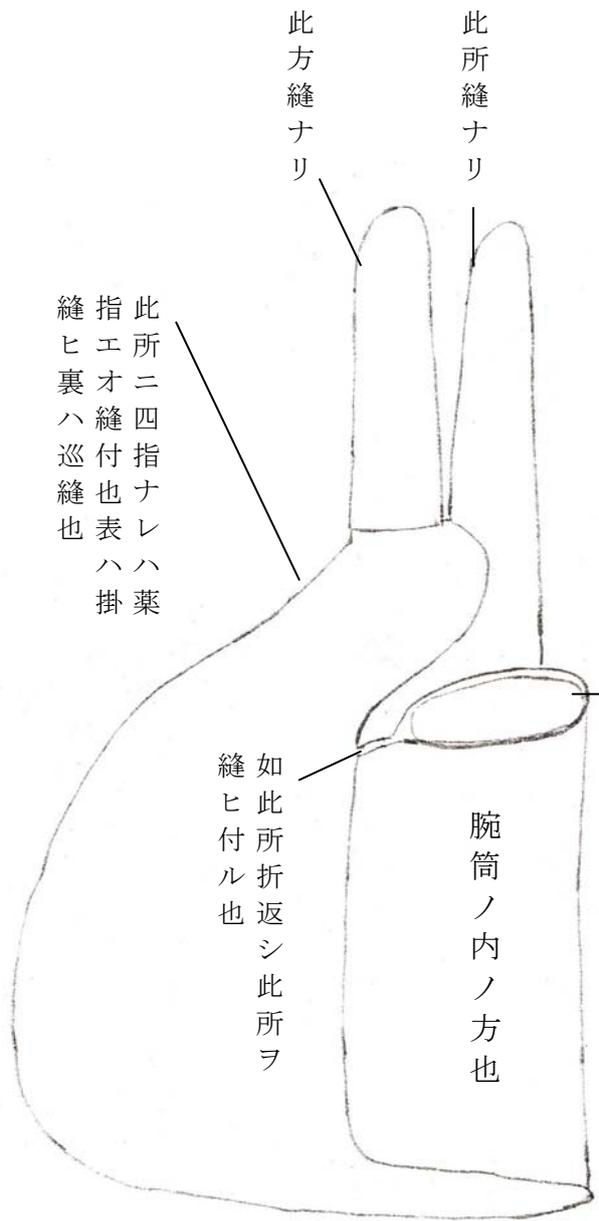
會得ナリカタケレハ態ト爰ニハ贅セズ

革裁タル圖



右ノ如ク革ヲ裁腕筒ヲ内ノ方折返シ縫ナリ其

圖左ノ如シ



此所縫ナリ

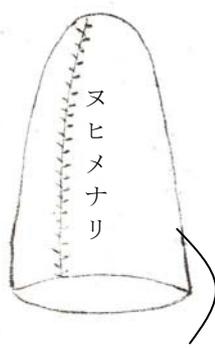
此方縫ナリ

此所ニ四指ナレハ菓  
指エ才縫付也表ハ掛  
縫ヒ裏ハ巡縫也

如此折返シ帽子ノ内  
ノ皮ヲ縫付ルナリ其  
圖後ニ出ス

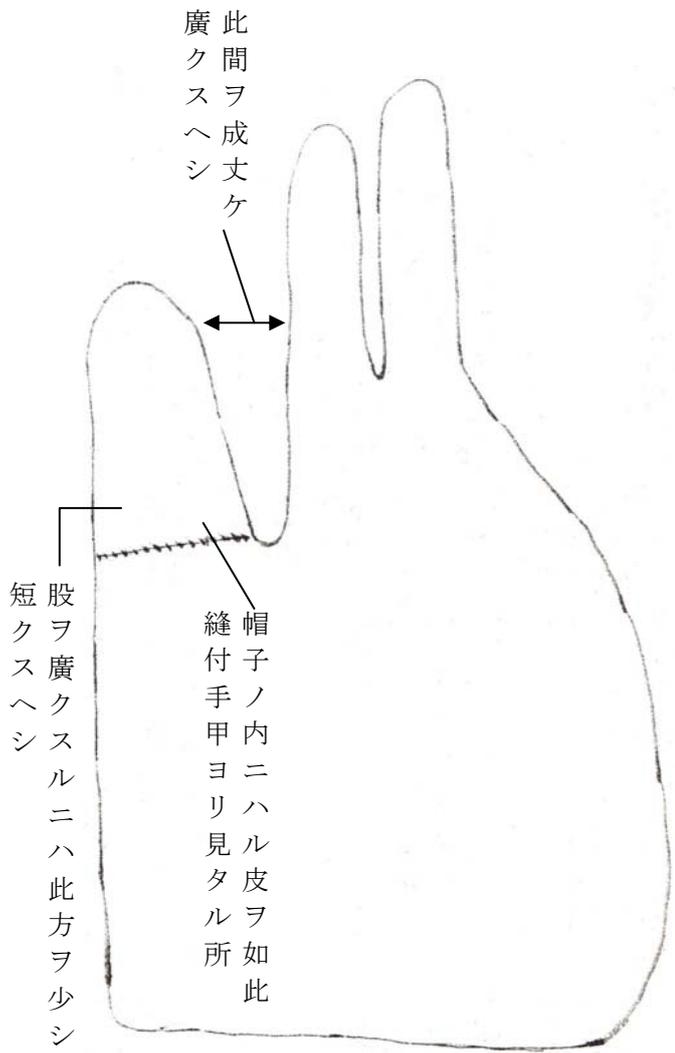
腕筒ノ内ノ方也

如此所折返シ此所ヲ  
縫ヒ付ル也

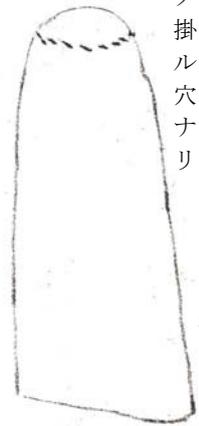


如此の皮ヲ袋ニ縫ヒ帽子ヲ  
付ル所ノ小口ニ縫付置キ此  
上角カムラセ此皮ニ粘ヲ付  
角ノ内押込ミ能々ハリ付ル  
也

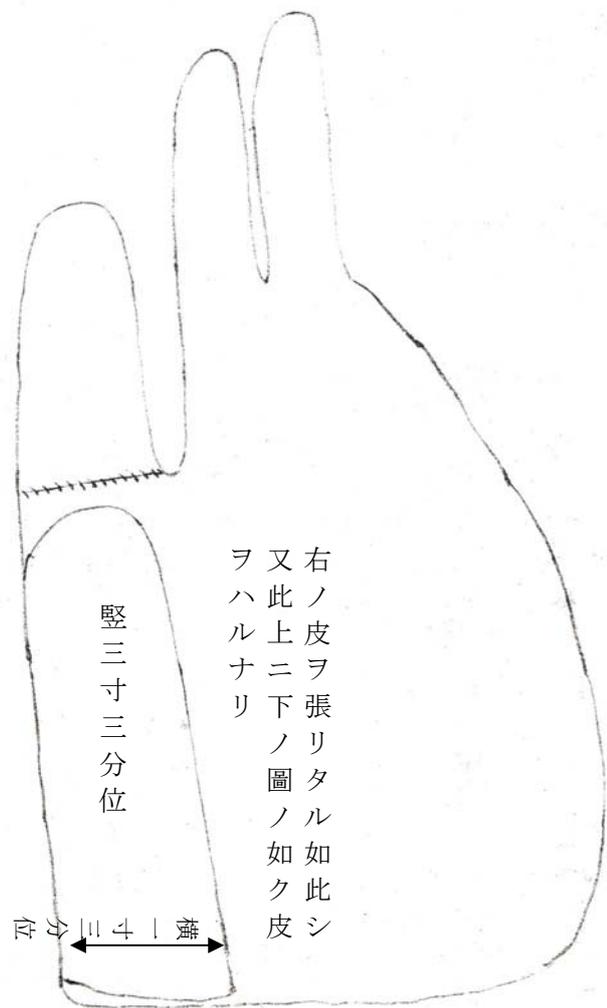
右ニ圖スル如ク帽子モ内ニ張ル皮ヲ縫付置キ  
 扣ノ下地ヲ拵ヘシ塗皮ナトノ強皮ヲ圖ノ如ク  
 裁左右上ノ三方ヲケスリ落シ肉ヲ付椀筒ニヌ  
 リニテハリ付ルナリ



縫廻シノ掛ル穴ナリ



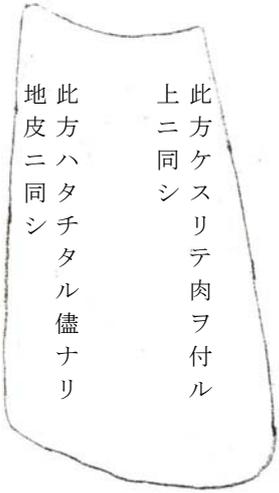
コワキ皮ヲ左右上ノ三方ヲケズリテ肉ヲ付腕筒ニ  
 ヌリニテハリ付ル堅三寸三分余リ横一寸三分位堅  
 長ハ縫廻シニ六分位掛ル様ニスル也但シ寸法ハ  
 ノ大小ニヨリテ定マラス



右ノ皮ヲ張リタル如此シ  
 又此上ニ下ノ圖ノ如ク皮  
 ヲハルナリ

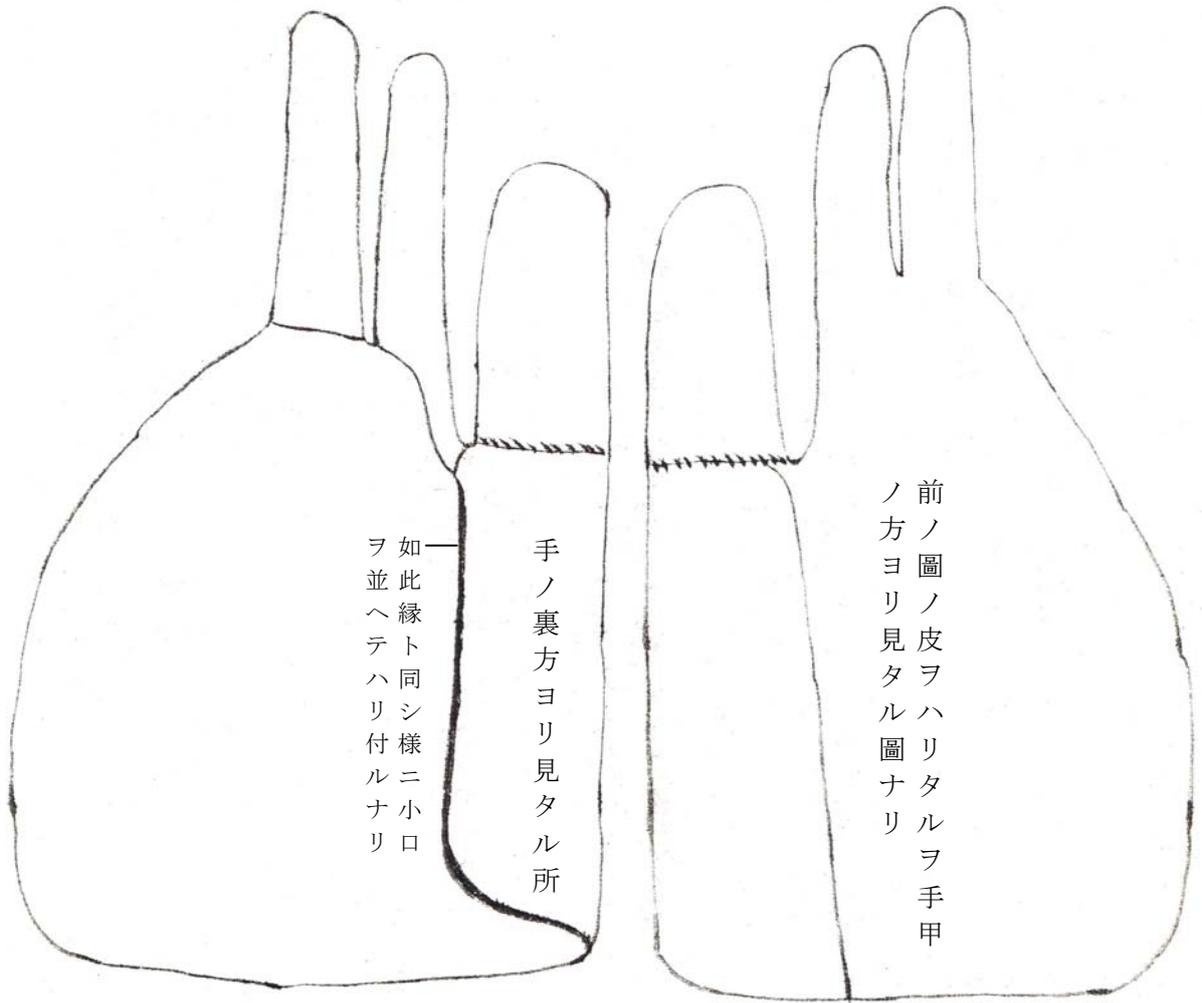
堅三寸三分位

寸 四 寸 一 寸 一 寸



此方ケスリテ肉ヲ付ル  
 上ニ同シ  
 此方ハタチタル儘ナリ  
 地皮ニ同シ

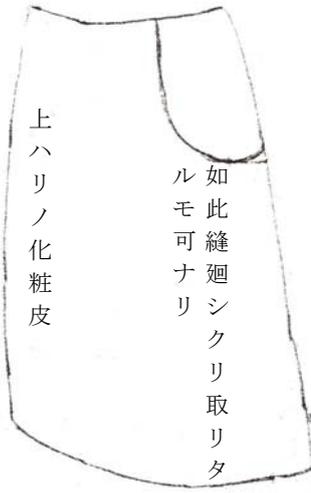
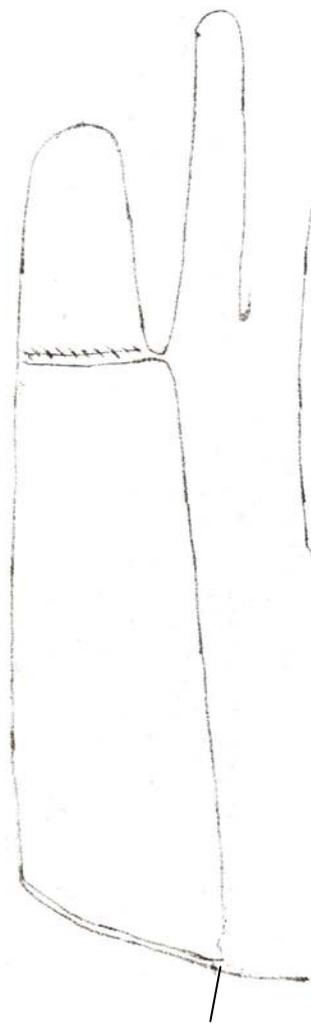
如此ノ皮ヲ又作り下地ハリタル皮ノ上  
 ニハルナリ此皮ハ廣キ処ニテ三寸位堅  
 四寸四五分位左ノ下ハ襍ノ縁ト同段ニ  
 何モ左ニ圖ス



手ノ裏方ヨリ見タル所  
 如此縁ト同シ様ニ小口  
 ヲ並ヘテハリ付ルナリ

前ノ圖ノ皮ヲハリタルヲ手甲  
 ノ方ヨリ見タル圖ナリ

如此ハリ又上ニ塗皮ヲ  
 ハルナリ其圖下ニ出ス

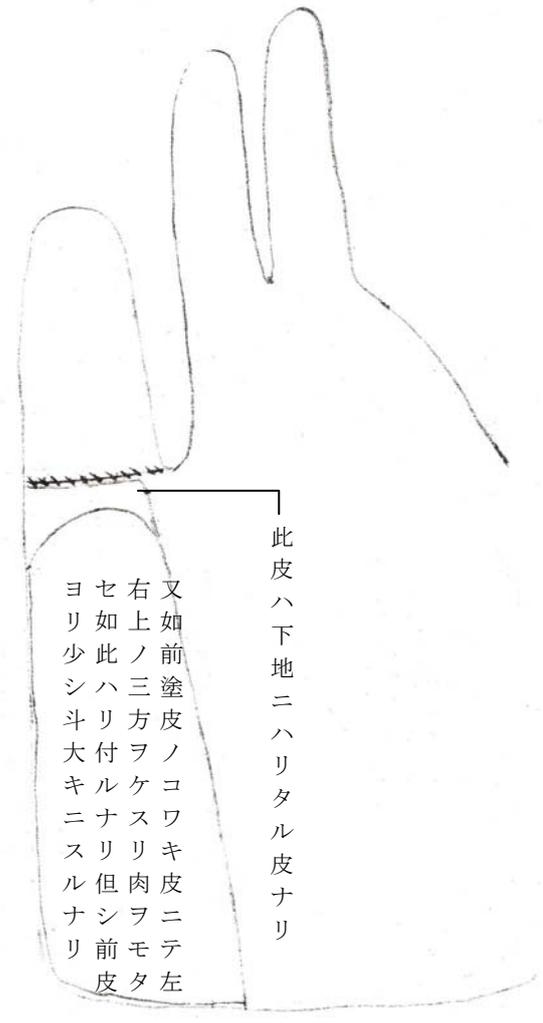


上ハリノ化粧皮

如此縫廻シクリ取りタルモノナリ

此皮ハ襪ノ大小ニヨリテ不定扣一盃ニスルナリ

此所ヨリ腕ノ内ノ方小口ヲ少シ内ニ入ル程ニ作ル也扣ヘハ惣ヌリ堅メニスルナリ手裏ノ圖ハ畧ス此ニテ可考



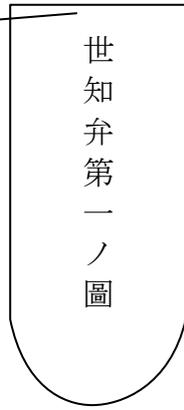
此皮ハ下地ニハリタル皮ナリ

又如前塗皮ノコワキ皮ニテ左右上ノ三方ヲケスリ肉ヲモタセ如此ハリ付ルナリ但シ前皮ヨリ少シ斗大キニスルナリ

此皮ノ上ニ化粧ニ上ハリヲスルナリ上ハリ皮ハ惣地ト同シ又色ヲカヘ異皮ニテモスルナリ

右ノ如ク扣ヲ作タレバ世知辨帽子ヲ作ルヘシ  
 世知辨ノ下地ハ随分厚キ皮ニテ圖ノ如ク裁テ  
 上ノ一方ヲケツリテナタラカニシ此上ニ又皮  
 ヲ張掛又張カケシテ以上五枚斗張重スルナリ

第一ノ圖左ノ如



此上ノ方ヲケツリテナタラカ  
 ニシムクリト山ヲモタセルナ  
 リ此皮ノ上ニ塗皮ノコハキヲ  
 少シ細クシテ四方ヲケツリ  
 ニ山ヲモタセ張重ルナリ其圖  
 左ノ如シ

此皮ハ厚キ所ニテ世知弁ノ長ヲ斗テ  
 其ヨリ少シ短クスルナリ

外ノ方

下左右ノ三方如此

上ノ方ヲケツリヲトシ山ヲモチ  
 タルヲ横ニシテ見タル圖ナリ左  
 右下ノ三方ヲ肉ノ方ヨリノキニ  
 タチテナタラカニスル也



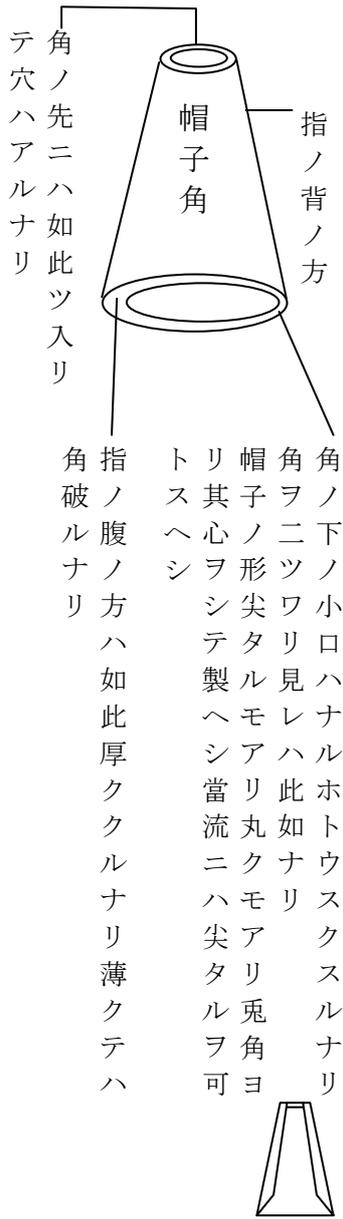
此圖ノ如ヌリニテ二枚ハリ重子是ヨリ角ノ内ノ方ニヌリニテ付ナリ

帽子ハ牛ノ角ノ先ヲ帽子ノ長ヲ計テ中ヲクリ

ヌキ筒ノ如ク作ヘシ堅メ帽子ハ牛ノ練皮ニテ

ハリカタメカタクスルナリ角ヲクリヌキタル

圖左ノ如シ

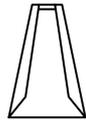


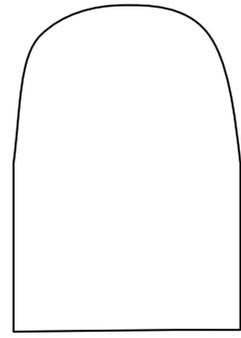
指ノ背ノ方

帽子角

角ノ先ニハ如此ツ入りテ穴ハアルナリ

角ノ下ノ小口ハナルホトウスクスルナリ  
 角ヲニツワリ見レハ此如ナリ  
 帽子ノ形尖タルモアリ丸クモアリ兔角ヨ  
 リ其心ヲシテ製ヘシ當流ニハ尖タルヲ可  
 トスヘシ  
 指ノ腹ノ方ハ如此厚ククルナリ薄クテハ  
 角破ルナリ

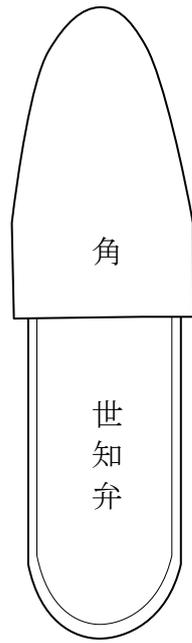




鹿ノ薄皮ヲ如此タテテ角ノ内ヲハルナリノリ  
 ハ堅キカヨシハクレサルヲ專一トスルナリ此  
 皮一枚ニテ角ノ内半分ヲハル前後二枚ニテ角  
 ノ内明サルヤウニハルナリ

如右角ヲ作り此角ノ下ノ小口内ノ方ニ世知辦

ノ下地ヲ粘ニテ張り付ナリ其圖左ノ如シ

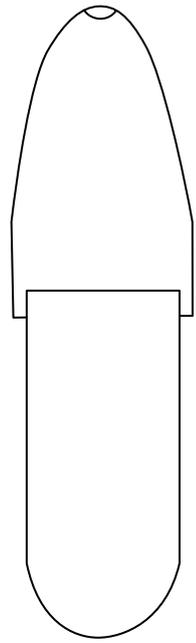


角ニ世知弁ヲ三四分重子ハルナリ又此上ニ圖  
 ノ如ク鹿ノ厚キ皮ヲタチ角ニ掛テハルナリ此  
 皮ノ大サハ二枚ノ張りカサ子タル皮ヨリ少シ  
 大キニスヘシ此皮ヨリ見タル圖左ノ如

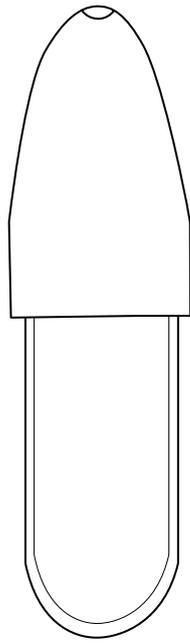
外ノ方

此所ハ角ノ小口ニ掛ル  
 故ニ如此スルナリ

下ノ方如此タツ  
 ナリ左右モ同シ



右ノ皮ヲハリタル圖ナリ帽子ヨリ少ク見ヘタレト見能タメニ如此記シタレト角ト同シ廣ナリ此上ニ又ヌリ皮ノコワキヲ圖ノ如クハルナリ



此ノ圖ノ如ク塗皮ノコワキ少シ細クシテ四方ヲケツリ肉ヲモタセテナラカニシテ張ルナリ二ノ圖ノ如ク

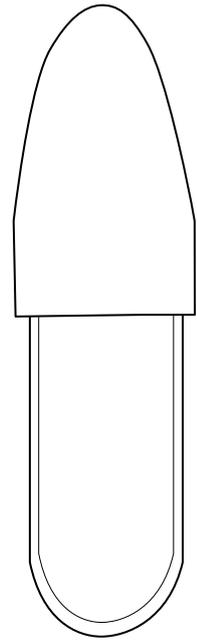
此頭ニハ皮ヲハリ重子ヌリカタメニシ程能クケツリテ形ヲ直スヘシ

右ノ如クナシテ角ヲ包ナリ包様ハ和ラカナル

皮ニテ左右ヨリ包ナリ又前後ヨリニカケテ包

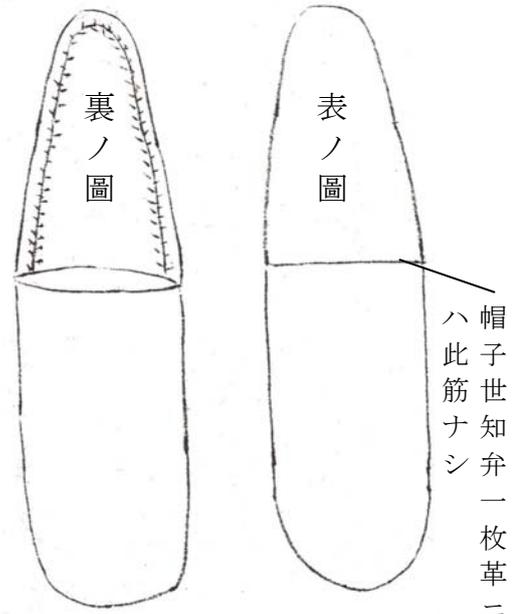
タルモアリ此前後ニテ包タル可ナリ圖左ノ如

シ



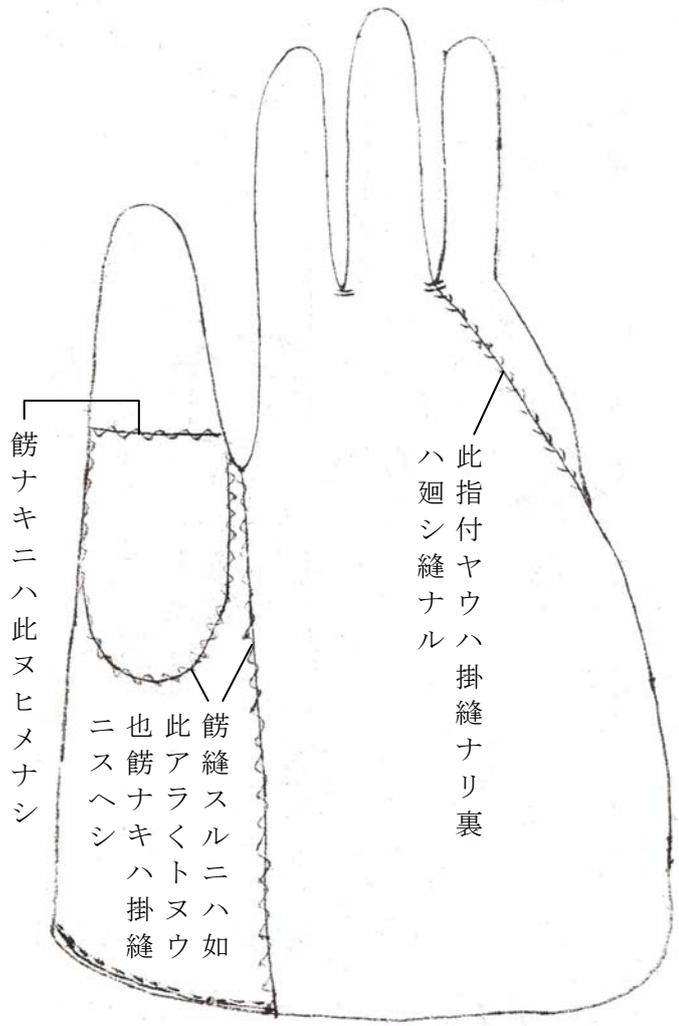
如此角ノ一盃ニ包  
ナリ

右ノ如ク角ヲ包ミ四ノ圖ノ如ク世知弁ノ上又  
モミ皮ノ厚キ所ヲ下地ヨリ少シ大ニシテ左右  
下三方ヲ裏ヲノキニタチテ張ナリ 世知弁ノ表  
ハリナレハ  
惣地ノ  
色ト同 帽子ハ同色ノ別革ニテ前後ヨリ表張ヲ  
シ指ノ腹ニテ掛縫ニスルナリ飭ナキハ帽子世  
知辦ト一枚革ニテ包ムナリ表ハリシタル圖左  
ノ如シ



帽子世知弁一枚革ニテ包タルニ  
ハ此筋ナシ

右ノ如ク帽子世知辨ヲ作り縫付アル帽子ノ内  
ニ張付皮ニ粘ヲツケ帽子ヲカムラセ能々ハリ  
付世知辨ノ廻リ縫ヒ付ケ指ノ腹ノ方ハ弦道ノ  
皮ニテ留ルナリ三指ナレハ此マ、四指ナレハ  
菓指ヲ付ルナリ



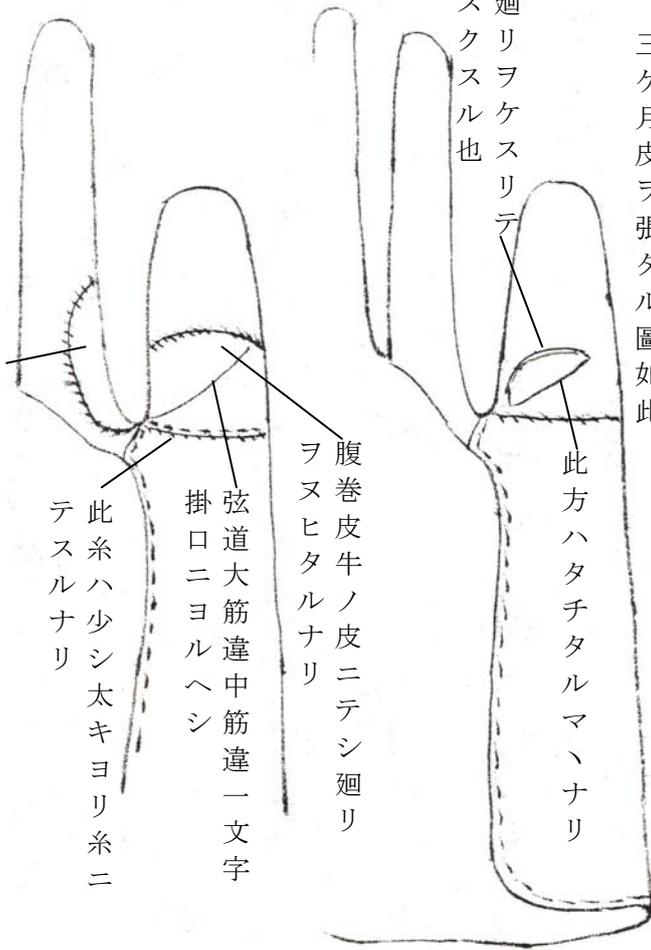
如此帽子ヲ縫付是ヨリ指ノ腹ニ弦道ヲ縫付ナ  
 リ弦道ハ塗皮ノコワキニテ三ヶ月ト云モノ作  
 リ帽子ノ腹ニカタキノリニテハリ其上ニ牛ノ  
 皮ニテ腹巻皮ト云モノヲノリ付ニシ廻リ縫也

人指ノ腹ニ弦ヒ子<sup>ネ</sup>リ皮ヲヌリニテ付廻リヲ糸

ニテ縫ナリ圖左ノ如シ

三ヶ月皮ヲ張タル圖如此

此方ヲ廻リヲケスリテ  
○ニウスクスル也



弦ヒ子リ鹿ノ皮也

此糸ハ少シ太キヨリ糸ニ  
テスルナリ

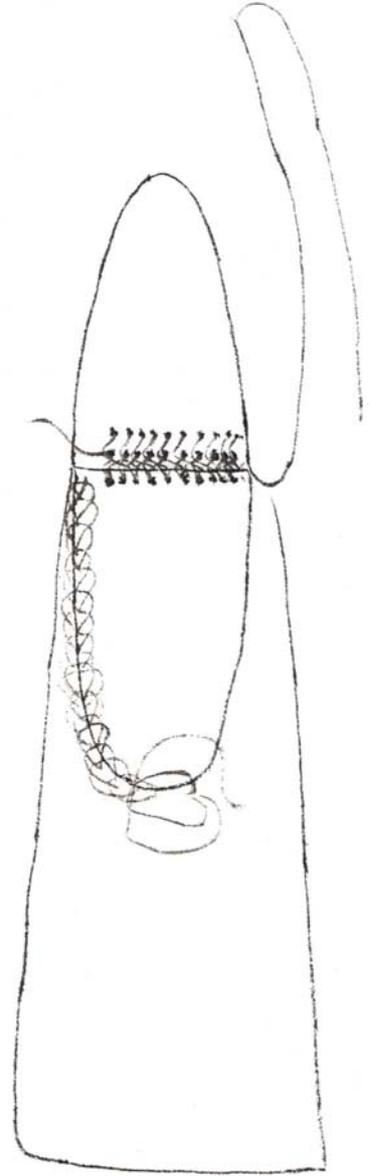
弦道大筋違中筋違一文字  
掛口ニヨルヘシ

腹巻皮牛ノ皮ニテシ廻リ  
ヲヌヒタルナリ

右ノ如ク弦道ヲ作り掛縫縫廻<sup>シ</sup>扣降匏腹縫ヲス

ルナリ縫様左ノ如シ

縫始  
縫終也



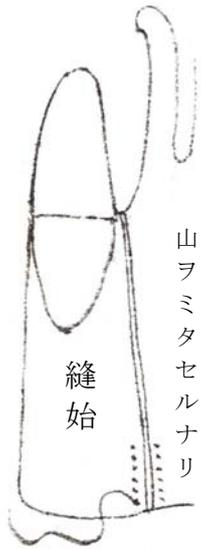
右掛縫縫廻共二二品掛縫ニ組掛縫アリ今當專

製ス縫廻シニ二重アリ二重ト云凡二度縫ニ非

ズ右ノ縫様ニテタカヘチカヘニ縫廻スナリ其

縫様ハ此  
如シ又蛇縫左ノ如シ

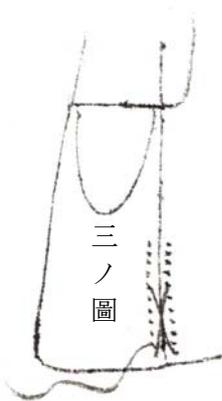
扣際少シ皮伏テナタラカニ  
山ヲミタセルナリ



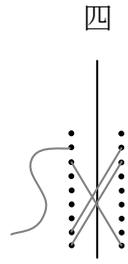
縫始



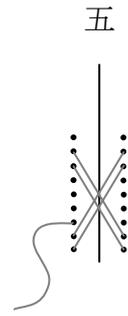
二ノ圖



三ノ圖

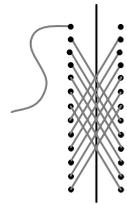


四



五

如此上ノ出シ又下ニ通又  
上ニ通スナリ箴度ヌヒタ  
ル所下ノ圖ノ如シ

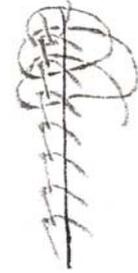


右ノ圖ニテ蛇腹縫ノ仕様ヲ考ヘシ此外ニカン

セン縫ト云モアリ其縫ヤウ左ノ如シ



先ツ下地ニ如此糸ヲ伏セ  
ヲキ又上ヨリ組下ル也其  
圖下ニ出ス



如此右上ヨリ糸ヲ引出シ下ノ組タ  
ル所ニ掛左ノ方ニ引出シ其端ヲ上  
ニ掛ケ左ヨリ右ニ引出又下ニカケ  
右ヨリ左ニ引出箴度モ如此スルナ  
リ



糸ヲ引シメタル所  
如此小兒ノ鞆ナトニ多シ大人ノ鞆ニモヌフナリ

以上右ニ記ス所ノ圖品ハ三指鞆四指鞆ノ製作

ナリ又双鞆ノ製ハ是ト異ナリタレハ左ニ裁様

此所ニ丈高指薬指ノ腹ノ方  
ノ元ヲヌヒ付ルナリ

小指ノ裏ニナル

小指表ニナル

此所薬指ヲツク

此所ニ長高指ヲツク

人指ノ表ナル此通折

人指ノ裏ナル

大指ノ表

大指ノ裏

手ノ裏ノ方ニナル

此朱ノ通ヲ内へ折返ス

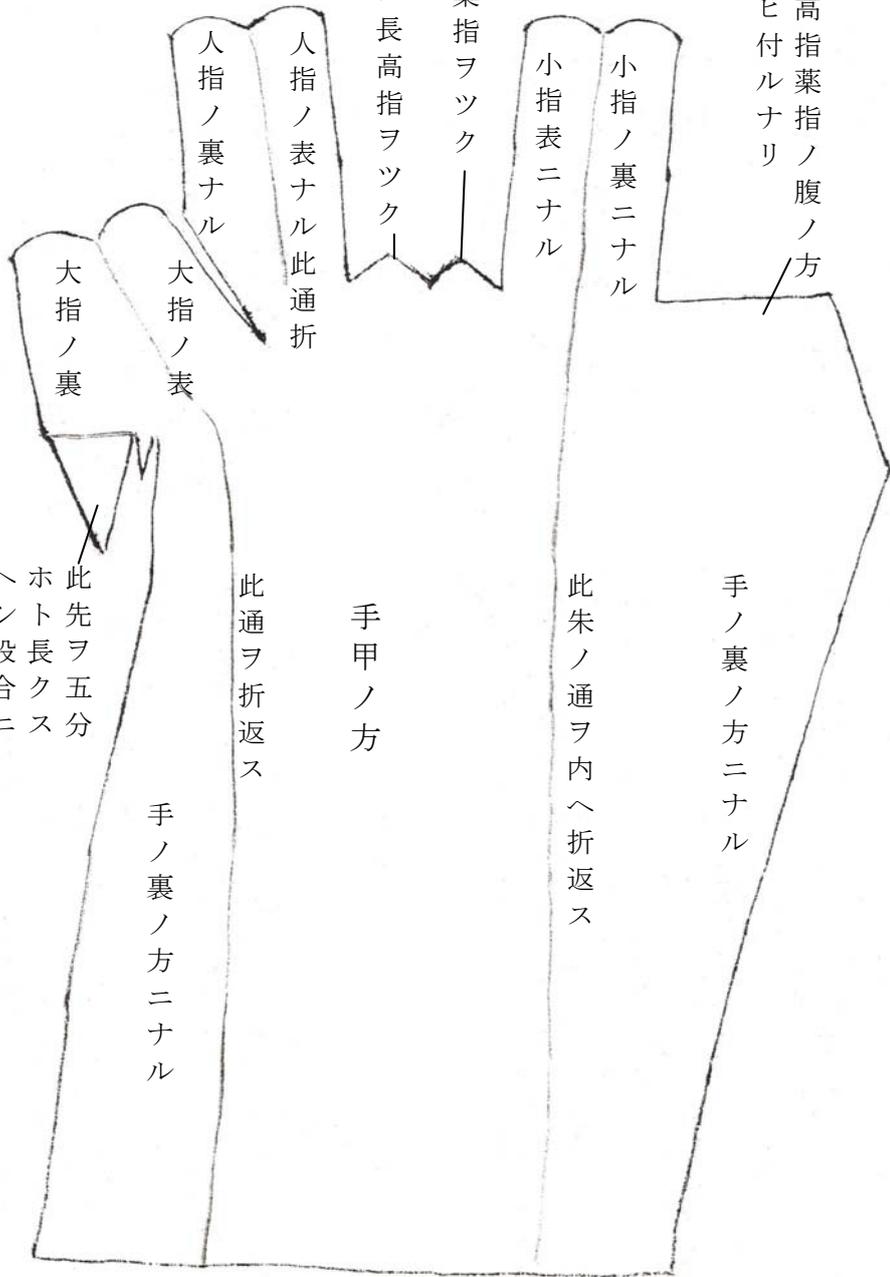
手甲ノ方

此通ヲ折返ス

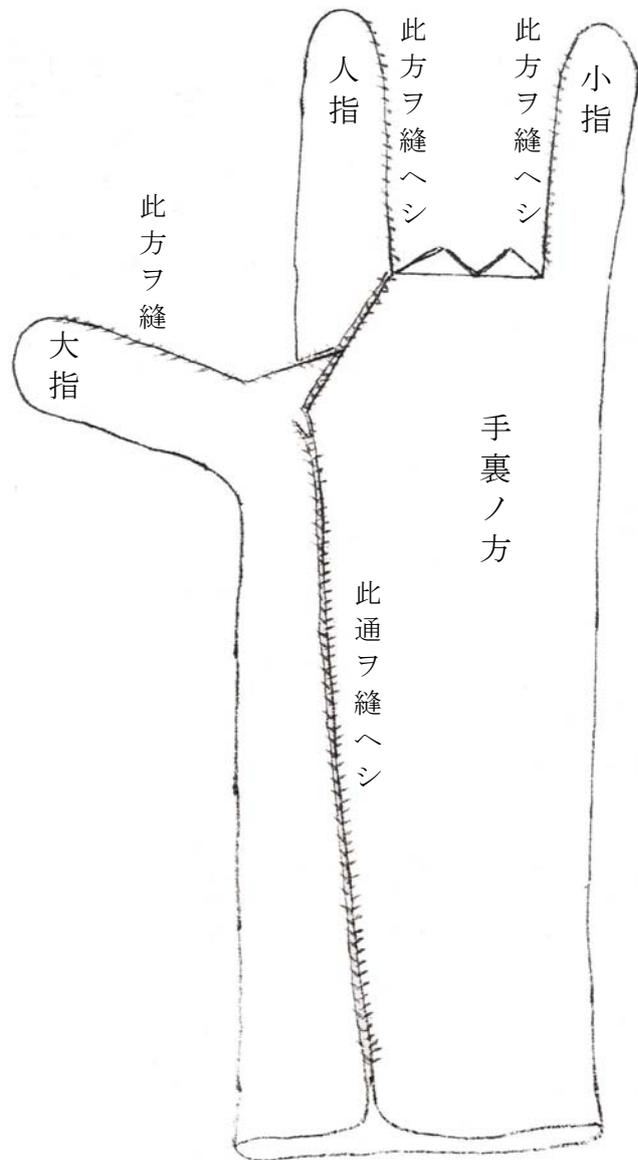
手ノ裏ノ方ニナル

此先ヲ五分  
ホト長クス  
ヘシ股合ニ  
ナル所也

如此皮ヲ裁テ次ノ圖ノ如ク腕ノ内ニ折返テ縫



之縫様ハカケヌヒニスヘシ



右ノ圖ニテ双襞ノ製ヲ知ヘシ裁様縫ヤウ左

右異ナルヘカラス

## 早礮

流傳曰早礮ト云モノ古烈士ノ用タル事跡ヲ不見當漸々射法一統ニ的礮ノ帽子ヲ切タル如ノ物ヲ圖テ日置カケトモアヤユカケ注シテハラカハニツルヒ子ネリアリト記タリ此圖ヲ見ルニ岡本記ニ云ヘル勿礮武用辨畧ニ圖シタル決拾ト云モノ、一種ニテ今當日置別帽子ト俗称セルモノナリ或時的礮ノ帽子ノ角ノハナレタルアリ是ニ弦道ヲ儲ケ緒ヲ付テ右ノ手ノ大指カケ射事ヲ試タルニ大指ノ根ニ強ク當リ強弓

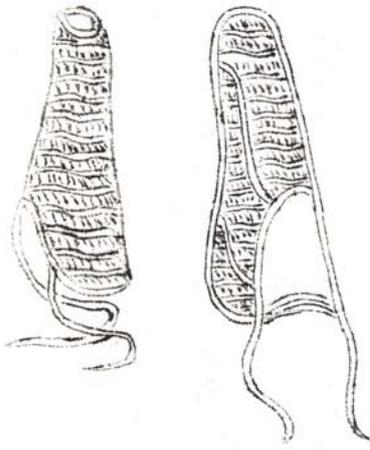
ハ勿論ノ事六分余ノ弓ニテモ快ク引直ハナラ  
 ス布而素<sup>スカケ</sup>磔ニテハ七分位ノ弓ハ心ノマヽニ射  
 レルナリ此早磔ト云モノハ太平ノ化ニ流レ好  
 事ノ故實者流弓術者流ナト云族今日席上ノ水  
 練ニテ作出セシモノナリ決テ物ノ用ニ不立實  
 事ノ射手ノ取扱モノニアラスト知ヘシ便見ノ  
 タメニ其圖ヲ左ニ出ス

射法一統圖



日置カケハヤユカ  
 ケハラカハニツル  
 ヒ子リアリ

武用辦畧ニ  
 決捨トアリ



## 押手

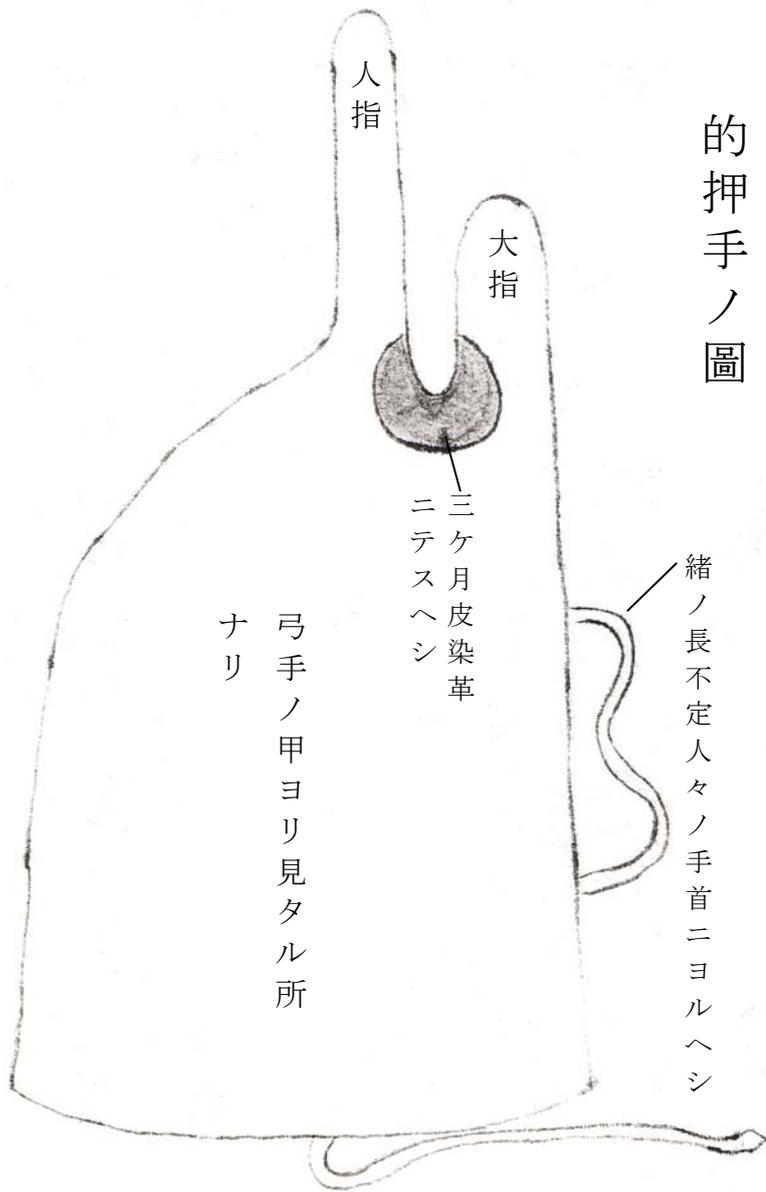
流傳曰押手ハ弓ヲ握リ押ス手ニ掛ル手袋ナレ  
ハ其儘ニ名トス此物ハ手ノ内ニ當リ出来手ノ  
内ヲ痛ム時或ハ矢ノ出勢ニ大指ノ二ノ節ヲ摺  
ムキ疵ヲ設タルニ止事ヲ工ス無據是ヲ掛テ其  
愁ヲ凌クタメナリ今當横着ナル者ハ痛所ハア  
ラストモ用心ニ常稽古射ニ用タリ幼學ヨリ掛  
ツケテハ俄ニ止ント思<sub>レ</sub>止ル<sub>レ</sub>成故ニ正路  
ノ師範者ハ固ク制シテ疵ヲ設不得止<sub>レ</sub>時ナラ  
テハ是ヲ掛ル事ヲ不赦其制ハ的押手差矢押手

ト二品アリの押手ト云モノハ至テ畧制ニテ多  
分白革ヲ以テ大指人差指二本ヲ指ヘクヤウニ  
作り股合ニ三ヶ月革トテ色革ヲ丸シテ表ヨリ  
裏マテ縫付弓ノ強觸所ヲ覆フ而已ノ制ナリ又  
指矢押手ト云モノハ一具磔ノ左ノ製ニ異ナラ  
ス五本ノ指ヲ皆指ニシ大指人指ノ股合ニ的押  
手ノ如ク三ヶ月革ヲ縫付五本ノ指ノ二節ヲ幅  
一分斗ノ革 ヲ指ノ背ノ方ニテ真結ニ結ヒタ  
ルモアリ是ヲ鯧革ト云ナリ又此革ノナキモア  
リ又手ノ内ニ猪目ヲ明ケ弓ヲ握ル便利トシタ

リ則弓馬故實ニ一具ゆかけさしたる時左ゆか  
けの手の内切たると云事狩の時の事也是は弓  
と能にきり覚へき為也弓法私書に笠懸ゆかけ  
手の内をくる也弓手斗也弓を射返為なりト云  
云是レ押手ヲ差テハ手肌ト弓トニ隔アリテ弓  
ヲ握タル心持甚不可ナレハ手ノ内ニヒタリト  
弓ノ觸ルタメニクリヌキタル穴ナレハ大ク廣  
ク明タルヲ利用トス稀ニハ此穴ヲ明サルモア  
レ氏必明ヘシ又此穴ヲ今ノ世トマウト云ナリ  
貞丈先生ノ説ニ今世ユカケノ手ノ内切タル穴

ヲトマウト云兔口字ナリ此名フルキ書ニ見ヘ  
ス近世ノ名ナルヘシト見ヘタリ左ニ的押手指  
矢押手ノ二品ノ圖ヲ出ス

的押手ノ圖



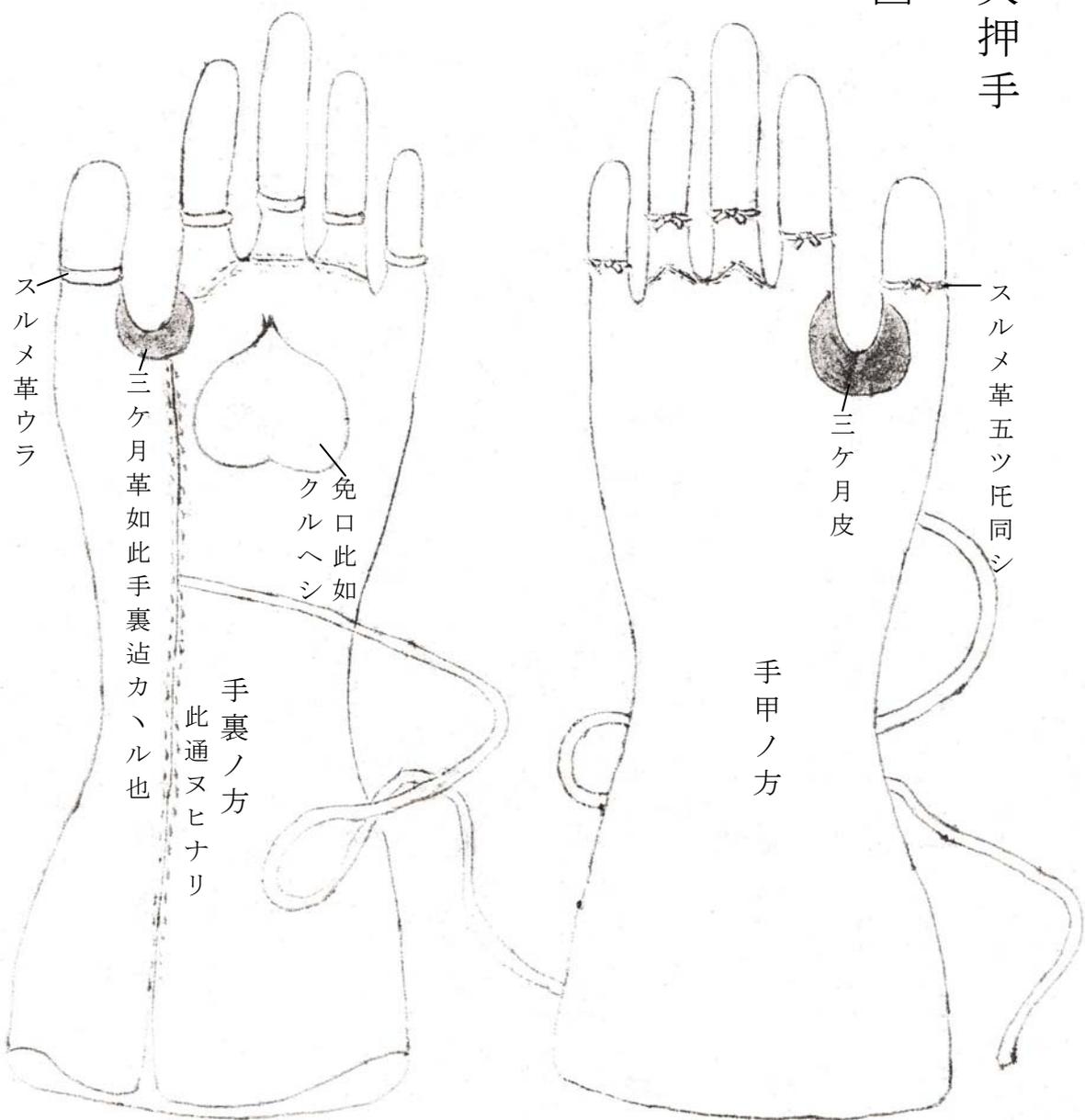
緒ノ長不定人々ノ手首ニヨルヘシ

三ヶ月皮染革  
ニテスヘシ

弓手ノ甲ヨリ見タル所  
ナリ

指矢押手

ノ圖



スルメ革ウラ

三ヶ月革如此手裏迄カ、ル也

免口此如  
クルヘシ

手裏ノ方  
此通ヌヒナリ

手甲ノ方

三ヶ月皮

スルメ革五ツ尺同シ

## 藥煉皮

流傳曰クス子皮ネハ松脂ヲ以煉タル藥煉ヲ納テ

己カ隨身ノ所ニ持用セル具ナリ祐方云藥煉皮納所ハ箠ノ引

出シ空穗ノ真蓋ノ裏矢籠ノ腰木ニ結ヒ付箠弓ニハ弓ノ鳥打ノ辺ニ結ヒ付其外心任セニ何所

ニテモ持ヘシ其制ハ馬皮滑ヲ幅二寸七八分位長サハ

三寸四五分斗是ヲ二ツニ折リクス子ネヲ入ル料

トス二ツ折タル所ノ寸一寸七分余則諸書當用

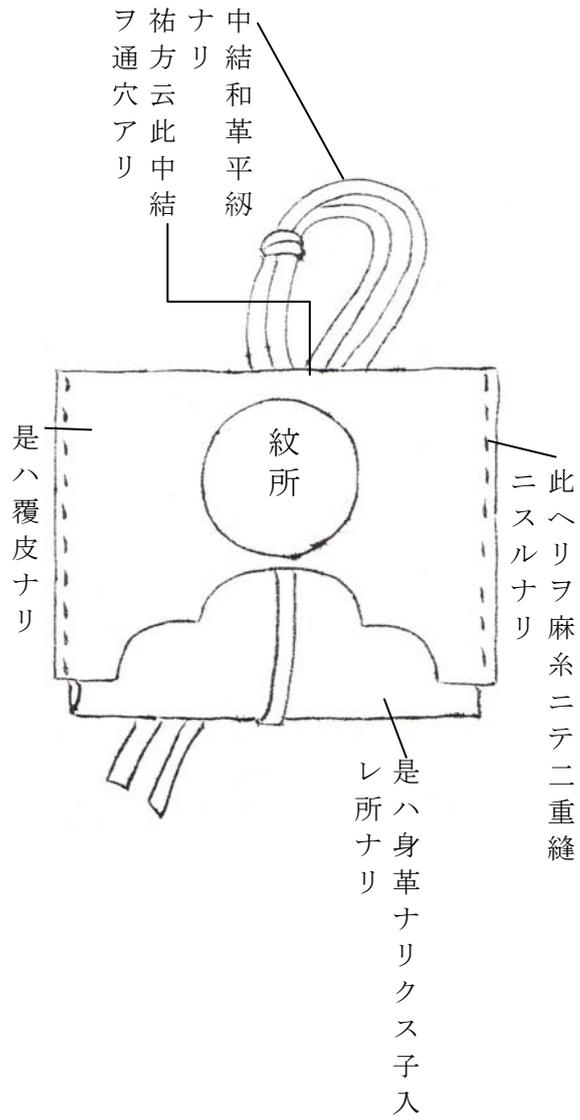
抄ニくすね皮よこ二寸八分たとへは一寸六分

すかり緒は壹尺式寸ト見ヘタリたとへはトア

ルハたてトカナ書ニシタルヲ写者ノ誤ニテテ

ノ字トとノ字ト書誤ナランカ一寸六分ハ二ニ  
折リタル所ノ寸ナリ此皮ハ表ハカリ漆ニテ赤  
モ黒モ青モ又リ裏ハ白キマ、不塗覆革モ表斗  
漆ニテ同色ニ塗り金箔朱ナトニテ紋所ヲ付或  
金箔ニテ唐草ナト模様ヲ置タルモアリ又ハ白  
皮ニ金紋付タルモアリ裏ニハ晒布ヲ付縁ハ麻  
糸ニテ二重縫ニスルナリ中結ハ諸書當用抄ニ  
スカリヲト有  
和革ニテ覆革ニツラヌキ置ナリ其圖左ニ出ス  
又畧制ニハ覆皮中結モナキモアリ此等ノ具ニ  
ハ定制ナトハ有ヘカラス

弓袋



流傳曰弓袋ハ弓ヲ炎天ニ觸ルレハ熱氣自然ニ  
熱  
 通シ鰾暖リ離ル、煩ヒアルヲ嫌ヒテ袋ニ臆シ  
 テ従者ニ持セシムルナリ大古ノ弓袋ノ料延喜

式ニ見ヘタレ凡其制ハ精カラス足利時代小笠  
原家ノ書類ニ見ヘタル所ハ弓馬故實ニ弓袋の  
事長は弓の長たるヘシふせ縫にすヘシ布は十  
九と云布也さりなから當世曾かつて而なき布也只の  
布のうつくしきを用ヘシうらはすの方を一尺  
式寸縫あまして置也其たけ程に御免としやう  
ふ皮を重ねて上に付ヘシ御免を中に重ねてし  
やうふ皮上に重ねヘシ二ッに折て折めの方にて  
あなたこなたへもちらかしてそのわなの所を  
別の黒革にて結て上の縫めに能く結ひ付ヘシ

上のひたを十二に折て付へし装束革のひろさ  
一寸弍分斗さきをけんさきに切へし下を一尺  
五寸ばかり弓より長くして是も縫のこして弓  
のきはにてむすび置也色の事常にはあさきた  
るへし二所にきくとちを付へし是も黒革廣さ  
五分斗也むすひて長一寸斗左前になき様に能  
く見てむすふへし又弓袋の下を革にて結て置  
事も有射手方聞書に弓袋乃事けしやう皮付る  
より上をはうつたれと申長たかはかりの壱尺  
五寸を縫へしそれより下はぬはすぬはぬ分の

長不定也時にしたか<sup>サ</sup>ひてはからふへしもとは  
すの所にて弓を入れ後むすびて置也うつたれ  
をもぬはず但本末のたちめをはかたひらのす  
そぬひの如くぬふ也きくとちは袋にぬひたる  
七尺五寸の間を三<sup>ッ</sup>に折て二所の折めに黒革に  
てすへしけしやう革はこめんの皮を黒皮とを  
重ねてごめんを下へなして真中より二<sup>ッ</sup>に折て  
真中の程に穴をあけて鞆のつてするやうに  
入ちかへて其中の折めを上へなる方をせみの  
頭の如くしわをよせて付る也此末をひなかた

に切へし皮の廣さたかはりの一寸也但是は本  
式の習の俣也常に不用には少つゝちかへても  
すへき也布色はあさきに染す也公方様も御旅  
などの時は色如此陣などの時は大將軍は白布  
たるへし然にきくとちはぬひめにつけけしや  
う皮はおりめに付る也射御持長記に弓袋の事  
色は不定すゑはすの方を壺尺弍寸ほとほころ  
はかして其きはに黒革とこめんとを重ねて付  
きはをあなたこなたへとをしてひろさ一寸長  
壺尺弍寸にうつたれと同してさきをとんほう

頭に可切こめんを下黒革をは上にかさぬへし  
さて袋を四ッに折て折目三所にきくとちを黒革  
にてすへし本はすの方五寸あまりほころばか  
すへし扱弓を入れてもとはすの方を結へし長式サ  
のたかはかり九尺五寸斗にすへき也又きくと  
ちは上下のほころひとのけて三折て二所にす  
るとも申ト云云右三書ヲ合セ見ルニ文面ハ前  
後アレト其制ハ大同小異ナリ先弓袋ノ長サ弓  
馬故實ニハ弓ノ長タルヘシトアリ此頃ノ弓尺  
ハ其人ノ高計尺ニテ七尺五寸ナリ則射手方聞

書ニハ七尺五寸トアリ此七尺五寸ニウツタレ  
一尺二寸下ノ弓ノ入タル所ヨリ長分一尺五寸  
合セテ一丈二寸トナル是レ弓馬故實ニ見ヘタ  
ル弓袋ノ惣長ノツムリナリ射御持長記ニ八九  
尺五寸斗トアリ高忠聞書別記上賢抄弓法私書  
等ニ八九尺トアリ同流ノ書ニ見ヘタル所如此  
長短アルハ弓袋ノ長サ定マラサルヲ知ヘシ長  
サ定マラサレハウツタレ下ノ弓ヨリ余ル分ニ  
モ長短アリ弓馬故實ニハうらはすの方を一尺  
式寸縫あまし中畧下を一尺五寸はかり弓より

長くして是も縫のこしト云云射手方聞書ニハ  
うつたれと申長たかはかりの壺尺五寸トアリ  
テ下ノ長サハ不見射御持長記ニハウツタレ一  
尺二寸下ノ長サハ五寸アマリトアリ射御拾遺  
抄ニハ是ト同シ法量物異本ニハウツタレ一尺  
二寸 中畧 スソノトキタル分先ト同前也ト云云  
ウツタレヲ長クシ下ヲ弓ヨリ長クスル類ハ只  
ニ莊觀ノミニテ不用ノ所ナレハ恰好ヨリ見斗  
ニスヘシ又幅ノ廣サ右三書ニ不見射御拾遺抄  
ニ式ニハ布一乃ニシテトアリ又弓法私書ニ弓

袋の縫やうは布一幅を押合せてふせ縫に帷な

と縫様にしてトアリ布一幅ヲ二ツ折テ縫へハ

大概四寸ハカリナリ縫様ハフセ縫ニスルト弓

馬故實ニモ見ヘタリフセ縫ハ一通リ縫ヒ丈ヲ

折付テ其上ヲ又縫ナリ上下ノ裁目ハ帷ノスソ

ノ如ク縫ト射手方聞書ニアリタチメヲ内ニ折

返シ又折返シテ其上ヲ縫フナリ又化粧皮弓馬故實

ニハ装束ハ上ニ黒革下ニ御免革御免革ハ錦革ヲ似テ染タル

革ナリ錦革ハ紋ヲ白ク地ヲ紫ニ染メタル革也

是レニ似テ文ヲ白ク地ヲ柿色ニ染タルヲ御免  
革ト云ナリ紫ハ制禁ノ色ニテ平人ハヲ重ル  
用ユル更ナラス故ニ此革ヲ用ユナリ

諸書ニ見ヘテ定法ノヤウニナリタレ氏弓馬故  
實ニハシヤウフ皮御免革ヲ重ヌルトアリ上賢  
抄ニハこめんしやうふ皮たるへし又くる皮赤  
皮にてもする也トアリ黒革御免革ニカキリタ  
ルニハアラス何革ニテモ心任ニスヘシ幅モ不  
定高忠聞書別記弓馬古實上賢抄弓法私書ナト  
ニハ廣一寸二分トアリ射御持長記射御拾遺抄  
射手方聞書等ニハ一寸トアリ又法量物異本ニ  
ハ廣残一文半也トアリ一文半八寸ニナヲセハ  
一寸二分位ニナル此皮ノ先ヲ劔先或蜻蛉頭ニ

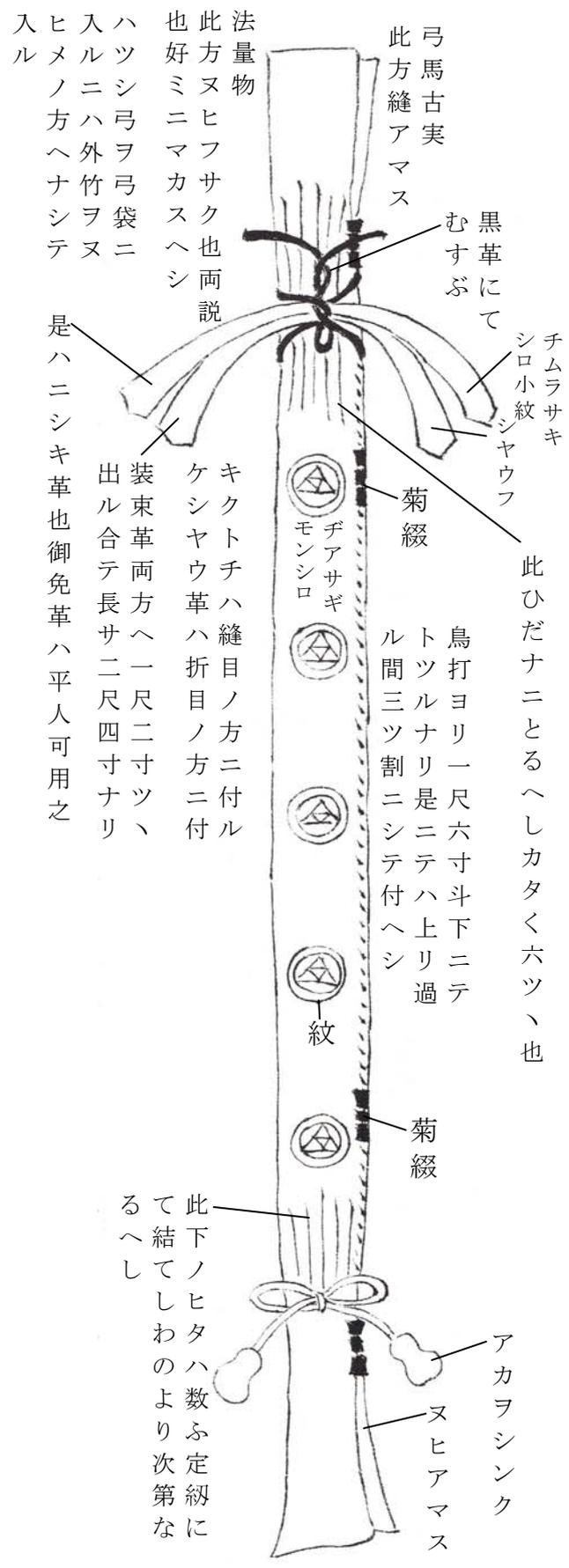
切ルヘシト孰レ書ニモ見ヘタリ劔先モ蜻蛉頭  
モ同事ニテ三角ニ切ルヲ云ナリ又菊トチノ付  
様射御持長記ニ委シク見ユ前ニ出シタレハ付  
ヤウ爰ニハ畧ス菊トチハ縫目ノホコロヒンタ  
メニセルモノニテ縫留ニセルヲ菊トチノ用ト  
ルレ氏其主用ヲ失ヒ只觀美ノミニセル叟ニナ  
リタリ又色ハ式正ノ時戰場ニハ白ヲ用ヘ常ハ  
何色ヲモ用ヘタリ則弓法私書ニ色は赤黄赤白  
黒何も用也但白袋は軍陣ヘ持ヘシ軍陣の時は  
大将も葉武者も白袋なるヘシ常は何色にても

本ノマ、青カ

苦からずといへとも先浅黄も元木などを可持  
同事なから赤き黒きなどは人に依てさし出る  
歟<sup>や</sup>用捨すへし法量物異本ニ常は布を浅黄に染  
て用る也式には白布也トアリ此外ノ書類ニ所  
見少カラスト云へ<sup>レ</sup>伊勢家ノ犬追物圖説ニ紋ヲ付  
ニハ見へサレ<sup>レ</sup>伊勢家ノ犬追物圖説ニ紋ヲ付  
ル事見へタレハ家紋ハ卯ナレハ付へキ事ナリ  
又諸書常用抄ニ公方様軍陣の御弓袋は重織物  
に桐の丸を三所に付也丸は白地は赤し桐は白  
葉をは紫も之ぎ黄也けしやう革立しやうふ紫

皮を重ぬへし公方様常には御弓袋御持せ候事はなき也犬の時軍陣の時は有之犬の時は赤く無文也ト見へタリ是レ詰構ヲツクシタス弓袋モアリタルヲ知へシ犬追物圖説ニ見へタル弓

袋ノ圖左ノ如シ



法量物  
此方ヌヒフサク也両説也好ミニマカスヘシ  
ハツシ弓ヲ弓袋ニ入ルニハ外竹ヲヌヒメノ方ヘナシテ入ル

是ハニシキ革也御免革ハ平人可用之  
キクトチハ縫目ノ方ニ付ルケシヤウ革ハ折目ノ方ニ付  
装束革両方へ一尺二寸ツ、出ル合テ長サ二尺四寸ナリ

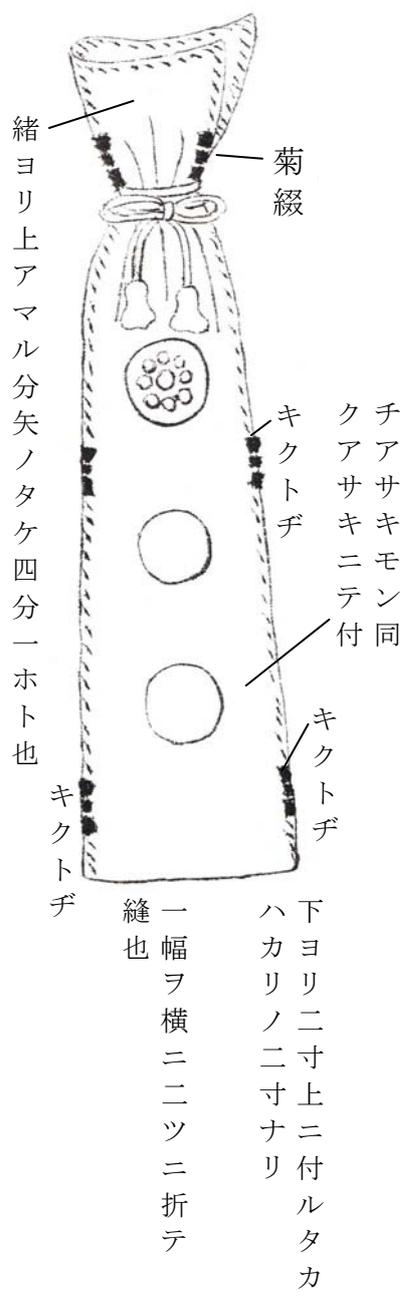
此ひだナニとるへしカタク六ツ、也  
鳥打ヨリ一尺六寸斗下ニテトツルナリ是ニテハ上リ過ル間三ツ割ニシテ付ヘシ

此下ノヒタハ数ふ定綱にて結てしわのより次第なるへし

## 矢袋

流傳曰矢袋モ簇ヲ炎天ニ觸レテハ節々ノ間干  
割レ或ハ曲ミク子ル故ニ此袋ニ入レテ所用セ  
ルナリ犬追物圖説ニ真犬追物記に云引目袋何  
共不定布ま然刀袋のことく也但口をふ折緒に  
て結也淺黄に也云々按するに長さも幅も引目  
の大小篋の長短によるへし紋も有へし菊とち  
も有へし引目一腰入へしト見へタリ此引目袋  
ト云モノ引目ヲ入ル袋ニテ則矢袋ナリ元來鏃  
ノ少キ的矢ノ類ハ矢筒ニ入レテ持用セリ矢頭

引目ノ類ハ矢尻大キナルモノナレハ矢筒ニ蔵  
 ル更煩シ矢袋ハ的矢ノ類ヲ入ルモノニアラス  
 矢頭引目ノ類ヲ入ル袋ナリ其圖左ノ如シ



右ニ模写スル圖ハ犬追物圖説ニ出タリ又笠懸

引目ハ此袋ニ不入皮袋ニ入ナリ射鏡ニ引目は

笠掛 引目 袋ニ可入桐のもんにしき皮むもん紫斟酌

すへし平人は甲斐國革なんと可用又云引目の  
籠をまく皮のひろさ一寸斗もとはきのきはに  
て少き革を以てゆひとめへしすそは引目袋に  
付てま仕別しよとする也ト見へタリ桐ハ足利  
家ノ紋所ニテ此頃ノ武士ハ憚テ桐ノ紋ヲ不用  
錦皮ハ地紫文ヲ白ク染出シタル革ナリ紫ハ官  
服ノ色ニテ足利時代モハ制禁アリテ平人ハ用  
ル叟不成今當ハ其法度廢リタルニテ何人モ用  
ル色ナリ又甲斐國革ト云モノ詳ナラス能ク知  
ン人ニ可尋又此皮袋ニ入レ籠ノ卷様笠懸聞書

二笠懸引目は皮袋に入物也笠には袋より革を  
つゝけて篋巻をぬひ付る也巻様は篋巻を持て我  
かむねの順に立て持て右のねを以て外へ巻也  
矢なみをねつることく成へし本はきのもとに  
てほそき皮を付てひほむすふことく苗也袋の  
内の方にとち付る也篋巻革かね一寸斗也ト見  
へタリ左ニ犬追物圖説ニ出タル引目袋ニ入レ

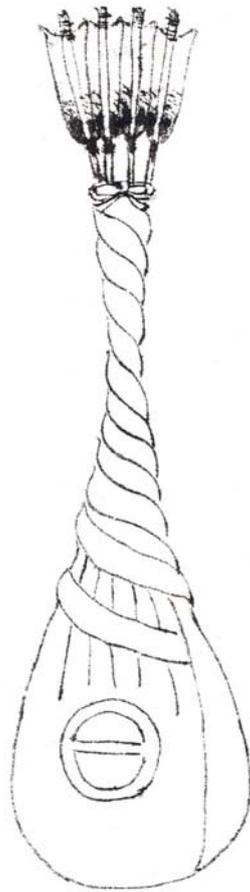
篋ヲ巻タル圖ヲ模写ス

右矢袋ノ篋巻皮ノ外ニ矢結皮ト云モノアリ此  
皮ハ寸法長サ定マラス大概廣サ一寸位長サハ



此紐にて本はきの所を結ふへし

引目を入たる圖



引目ノ数二順ヘシ八廻日記口傳ニ引目を結ふ  
皮の廣さは一寸にして両方の端を等かしらの  
如くかとおとす也形は如此きる也長さは定  
れる事なし一束の引目を二まきまとひて巻て  
其あまりの皮をひほを結ひたるかことく両方  
へわなと端といたすへし引目からの大小によ  
つて皮の長短か有也又云引目をゆふ皮の事何  
皮にてもゆへとも本式は黒皮也紫皮菖蒲皮な  
とにてゆへとも本式は黒皮也上賢抄に引目の  
矢ゆひの革ある革たるへし廣さ一寸斗長さ定

らすト見ヘタリ又是ヲタハ子革氏云ナリ則犬  
追物初心記ニたばね革の事黒革紫革をすへき  
也二重にとりてむすぶ程にすへし長さは篋に  
よるまゝ定らぬ也はゞは壹寸也是も革により  
引本ノマ、引目カのはせばふ定心也トアリ考ヘシ

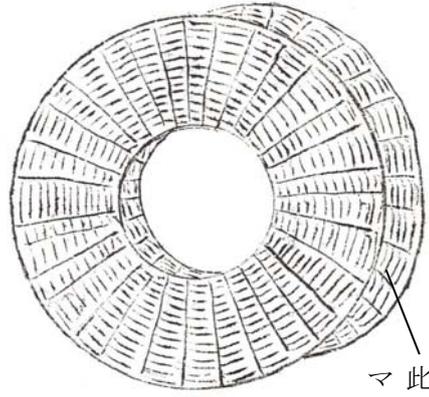
### 弦袋

流傳曰今當ノ弦卷ト云モノヲ古代ハ弦袋ト云  
ヘリ委シクハ温故之卷ニ述タレハ合セ見ヘシ  
其制ハ古今異ナルヘカラスツ、ラフシ氏シラ  
フシ氏云フ小葛キヲ割テ指渡シ三寸五六分ヨリ

四寸位ニ丸ク匏目ト云モノ如ク真中ニ小キ丸  
ヲ明ケ中ヲ空ニシテ儲弦替弦ノ蔓ヲ卷キ納メ所用  
セル様ニ編綴リ漆以テ赤ク塗り或ハ金箔ヲ置  
タルモアリ今當江芴水口薩摩ナトノ産物ナリ  
其中テ薩摩ノ産ヲ上品トセリ此弦卷ヲ古代弦  
袋ト云ニナツミテ後世絹帛ノ類ヒ以テ弦袋ト  
云モノヲ偽作セリ異本軍器考ニ丸ク縫ヒ底ハ  
ウスキ板丸ニシテ底シロニハ緒付タル躰ノ弦  
袋ト又四角ナル胴乱ノ形ノ如ク縫ヒタル弦袋  
ト二品圖出タル其圖使見ノタメ模写ス

芴  
(リ・ライ・さく)

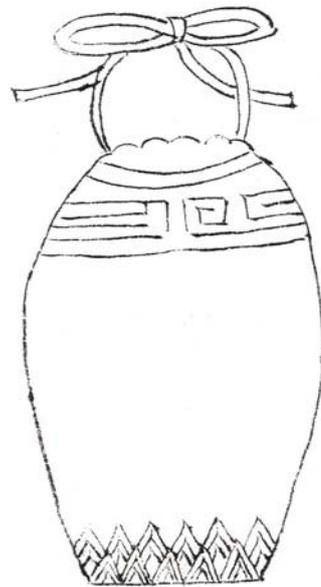
(07/05/30)



此所ニツルヲ  
マクナリ

此圖ハ古代弦袋ト云  
今ハ弦卷ト云ナリ

此二品ノ圖ハ  
異本軍器考ニ  
見タル今當弦  
袋ト云偽物ナ  
リ



## 蹠袋

流傳曰蹠袋ト云モノ古キ物ニハアラス古代ハ  
蹠ヲ袋ニ入レス外ニ頭シテ矢筒ノ鑲ニ蹠ノ結  
ヲ通シ結付タルモノナリ弓法秘傳書ニ矢筒の  
緒にゆかけを付る事緒付のくはんにとをして  
両方にわなの有やうにむすひて付る也弓法私  
書にゆかけを二<sup>ツ</sup>ゆひ付る時は両方に如此付也  
一方に二<sup>ツ</sup>も付る事くるしからす内はかやうに  
両方に付るよし何も右ゆかけたまへし  
祐方云  
右ユカ  
ケニ<sup>ツ</sup>付ルハ替  
ユカケ共ニ<sup>ツ</sup>也  
トアリテ矢筒ノクハンニ蹠ノ緒

ヲ結ヒ付タル圖アリ足利殿ノ頃ニハ磔ノ緒直  
ニ矢筒ノ鑲ニ結ヒ付タレハ磔袋ト云モノハ未<sup>タ</sup>  
無之一向ニ近<sup>キ</sup>世ニ好事ノ族觀美ヲ好ミ巧出シ  
タルモノナランカ結構ヲツクシタル織物ノ類  
ヲ表トシ裏ニハ絹晒布ヲ付長ク廣サハ磔ノ大  
小ニテ不定筒ノ如两口ニ縫ヒ两口ニ縮緬絹ニ  
テ覆輪ヲ取り其覆輪ニ打糸ヲ左右ヨリ行違ニ  
通シ此緒ヲ兩方ニテ引シメ兩輪ニ結ヒ置クナ  
リ差知レタルモノナレハ圖ヲ掲ル及ハス依テ

畧ス

## 道宝

流傳曰射法一統ニ道宝ノ圖ヲ掲テ朴ヨシ長五寸ユカケノ大ユヒヘ入ルヤウモスルヨシトアリ此モノハ弦ノ上下ノ仕掛中関ヲシテ其上ヲコスリ卷キタル苧ヲ平ニセル具ニテ今當ノ揉板ト云モノニ其用同シ長サ五寸トアレ氏五寸ニ定タルニハアラス諸書當用抄ニハたうほうの長四寸なりト見ヘタリ寸法ハ其人ノ心任ニスヘシ此等ノ具ニ定制ナトハアルヘカラス元來道宝ハ弦工ノ取扱具ニテ射手ノ必用セルモ

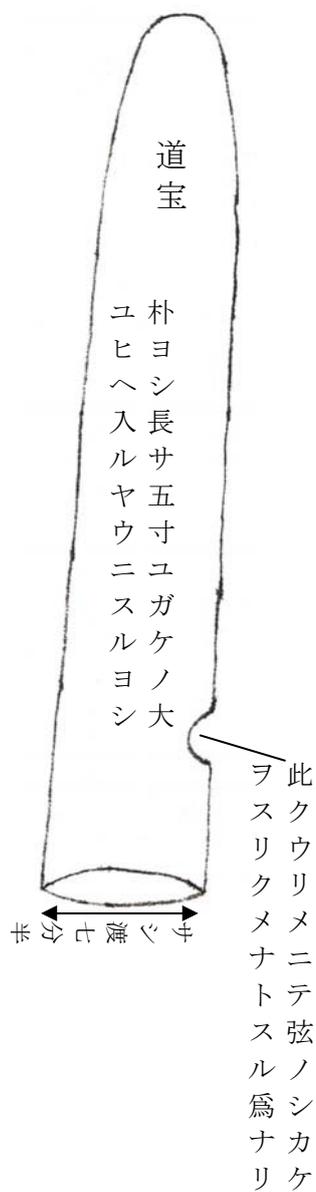
ノニハアラスト雖強弓ヲ以テ修行セル流風ニ  
テハ自ラ弦ヲ作ラサレハ弦工ノサシタル弦ニ  
テハ弦コラヘス古代モ強弓精射ハ自己ニ弦ヲ  
作リタル則東鑑ニ召小國源兵衛三郎頼繼<sub>ヲ</sub>は無  
双精兵也而不帶<sub>ルニ</sub>弓<sub>ヲ</sub>由申之間被下鎮西以下諸國  
進納之荒木弓等賜之一五度射之處每度其弦絶  
訖射藝又頗可謂養由將軍御感之餘於當座賜越  
前國稻津保地頭職於頼繼件御下文云爲弦麻可  
令<sub>レ</sub>知行者<sub>ト</sub>云云又平家物語長門本ニ惟能ハへ  
りぬりのゑほしに引枅の直無うちかけ引かた

ぬひて弓の弦をさしついで居たる所へ伊村帰、  
來けりと見へたりト貞丈雜記ニアリ古昔ノ武  
士自己ニ弦ヲ作りタル事跡ヲ知ヘシサレハ今  
當トテモ強弓ヲ好マン者ハ自己ニ弦ヲ作ルヘ  
キ更ナレハ此道宝ト云物捨ヘキニモアラス時  
トシテハ用ユル更モアルヘシ又貞丈雜記ニた  
う本の事弓の弦をこしらゆるとき用る物也古  
はとうほふと云しなりト見ヘタリ道宝ハ古名  
今ハ道本ト云シニヤ猶ヲ能ク知ラン人ニ尋ヘ

シ

射法一統ヲ見ヘタル圖

藤篋



流傳曰藤ヘラト云モノハ鍛鉄ヲ以テ長サ五寸

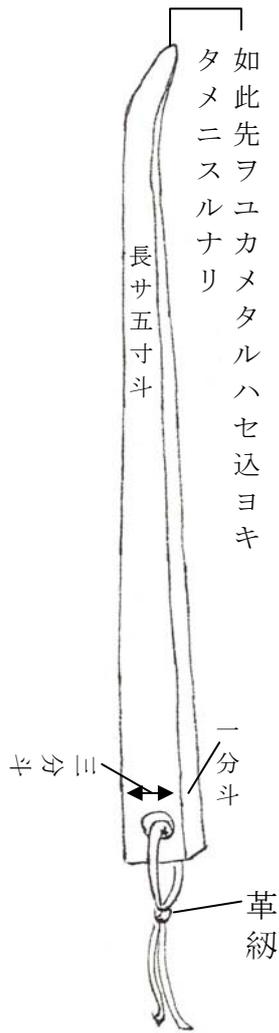
斗厚サ一部余リ幅二分五六厘ヨリ三分余リ末

ノ方ヲ次第々々ニ細ク薄クシテ尖カシ先ヲ少

ユカメ本ニ小キ穴ヲ明ケ此穴ニ和革ノ綬ヲ通

シ一束ニ結ヒ置ナリ

上下ノ鏑藤矢摺藤握革ナトヲ卷ク時或ハ解タ  
 ル時ナトニ此篋ノ先ニテハセ込テ卷留ヲセル  
 具ナリ射手ハナクテ叶サル具ナリ射法一統ニ  
 性ノヨキ竹ニテ作ルキメヘラト云モノト其用  
 方ハ同シ叟ナレ氏竹ニテハ損易シ用ニ不立試  
 テ自知ヘシ素ヨリ定寸ナレハアルヘカラス好  
 ニ任レテ作ルヘシ



## 村削具

流傳曰此村削具ト云モノハ弓ノ小村ヲスル具  
ニテ弓工ノ専用セル物ニテ射手ノ取扱モノニ  
アラスト雖前章ニ如述時トシテハ引味ノ己力  
心ニ叶サル所モアレハ自己ニ押刊<sup>けずり</sup>テ射手村ヲ  
セル亘モアルヘシ此村削具ニ疎クテハ弓ヲ削  
作ス亘煩シ故ニ今當ノ弓工ノ専用セル所ノ村  
削具ヲ粗記スルニ立鋸小刀鮫鑢木賊猪牙等ナ  
リ立鋸<sup>かんな</sup>ハ今當番匠<sup>大工ノ</sup>事ナリノ用ル鋸ニ大様ハ同  
シ番匠ノ鋸ハ刃ヲ向ニ衡<sup>カフカ</sup>セテホリ込ミ弓工ノ

用ル立鋸ハ刃ヲ不衡真直ニ彫込刃ヲ急ニ付タ  
ル迄ノ替リ也小刀ハ多葉粉包丁ト云モノ如ク  
幅廣ク薄ク作り是モ刃ヲ急ニ付タルモノナリ  
如此立鋸小刀ニ刃ヲ急ニ付ルハ弓村ニ用ユル  
木ハ性堅ケレハ逆目起ル亘アレハ深入リノセ  
ンタメニ刃ヲ急ニ付タルモノナリ又鮫鑢ハ鮫さめやすり  
ト云魚ノ皮ヲハキ幅一寸ハカリニ裁幅一寸位  
ノ長サ五六寸ノ木ニ粘ハリニスルナリ又木賊とくさ  
ハ普通ノモノナレハ別ニ評スルニ不及又猪牙ちよき  
ハ野猪ノ牙ナリ別ニ子細ナシ此等ノ具ヲ以テ

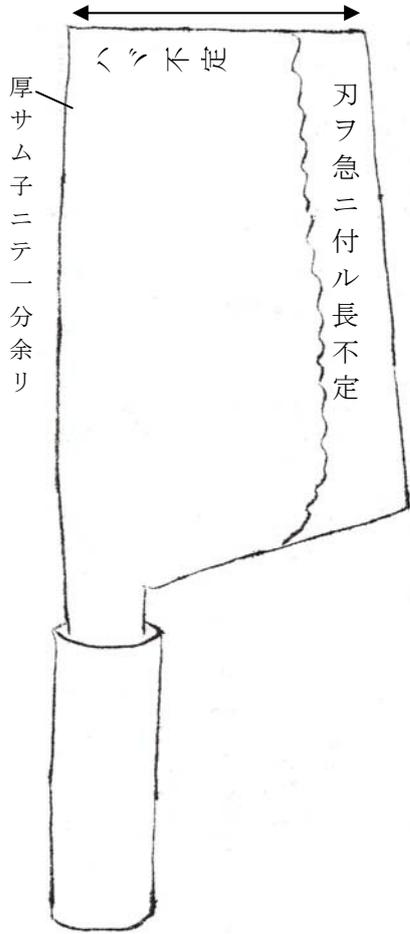
鮫鑢…今でいうサンドペー

パーのこと

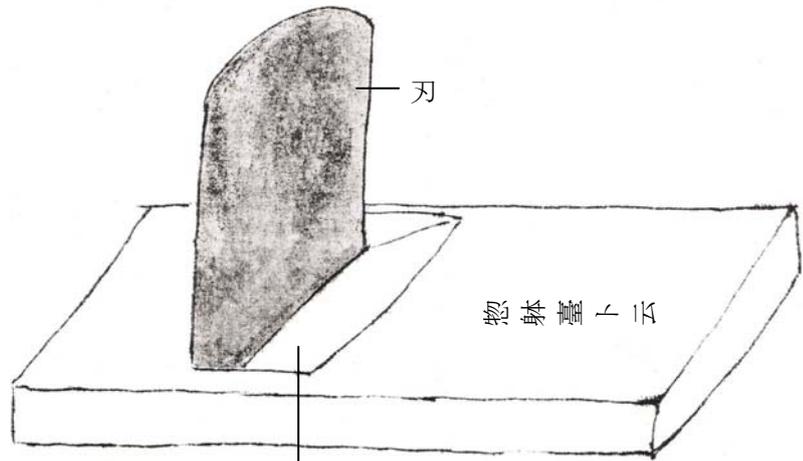
(07/06/05)

弓工ハ削爲村セリ射手モ此具ヲ以テ射手村セ  
ハ削作ス更煩シカラスト雖其所其場ニハ所用  
ナラス臨時ニ及テ急俄ニ村セル更モアレハ何  
ヲ以テモ押刊リ射手村セル更肝要ト知ヘシ猶  
射手村ノ条ト合見シテ村削ノ根本武士ノ實字  
ヲ失ヘカラス

小刀ノ圖



立鋸ノ圖



此カンナモ大小アリ数  
 モ三ツモ四モアリテ  
 細ク削リ荒削ノ差別モ  
 アルヘシ

此所ホリ込ミ  
 ナリ

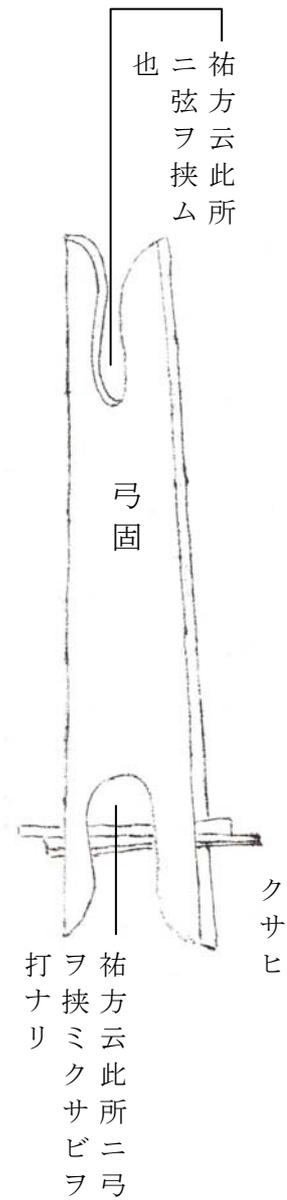
弓堅

流傳曰弓固ト云モノハ櫪ノ長一尺斗厚一寸四

五分幅八本ニテ二寸七八分夫ヨリ次第二細ク

削り落シ末ニテ一寸四五分位本ノ廣キ方ニ弓  
ヲ挟ム料廣<sup>サ</sup>二寸斗ク<sup>リ</sup>込<sup>ミ</sup>横ヨリ行違ニ銚<sup>ヲ</sup>  
打込様ニ作り末ノ狭キ方ニ弦ヲ挟ム料一寸斗  
ク<sup>リ</sup>込<sup>ミ</sup>タル物ナリ此弓固ヲ弓ノ大中ノ少シ  
上鳥打ノ邊ヲ挟ミテ弓ヲ固メ置モノナリ元來  
弓工ノ専用セル具ニテ射手ノ用ルモノニハア  
ラス今當不案内ノ射術者流ハ射手ノ用ルモノ  
ト心得タリ既ニ射法一統ニ弓道具色々有之人  
々ノ知タル事ナレトモ或聞アヤマリ又ハ或説  
多シテ迷<sup>ヒ</sup>ノ闇ハル、マトナシ故ニ今邪説ヲノ

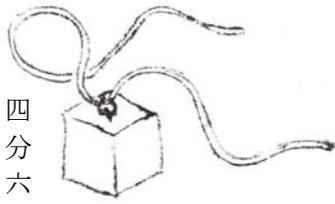
ソキ正説ヲアラハシ其侍ニ各所ヲ註シ此道初  
 學ノタスケトナス者也トイカメシク記シ種々  
 ノ弓具ノ圖ヲ模シタリ其圖中ニ此弓固ヲ出シ  
 タレハ此書ノ撰者淺野正親ハ射手ノ用ヘキモ  
 ノトシタリ可笑必シモ射手ノ用ルモノニアラ  
 スト知ヘシ使見ノタメ射法一統ノ圖ヲ模写ス



## 弦枕

流傳曰弦枕ト云モノ射法一統ニ双六ノ賽ト云  
モノ如ク四分六方ニシテ上ニ少キ鑲ヲ打其鑲  
ニ緒ヲ通タル圖アリ此物ハ弓ヲ張り額木ト弦  
トノ間ニ喰込セ鑲ニ通タル緒ヲ以テ外竹ノ方  
ヨリクルクト卷付結留テ弓ノ返サル用心ニセ  
ルモノナレハ弦枕トハ云ナリ勿論近世ノ偽物  
ニテ好事ノ者ノ巧ミ儲タルモノ用ルニ足ラス  
曲ミテ浮雲弓ハ弦枕ヲ不用トモ小緒キニテ弦ニ  
一卷シテ左右ノ端ヲ外竹ノ方ニ廻シヤリ違ニ

トリ弦ノ方左右共廻シ弦ノ上ニテ又ヤリ違ニ  
取り又外竹ニテヤリチカヒニトリ弦ノ上ニテ  
睨ト結ヒ置ハ決テ心配ナキモノナリ試テ自知  
スヘシ用ルモノニハアラスト云氏便見ノタメ  
射法一統ノ圖ヲ模写ス



四分六方ヨシ

弦枕

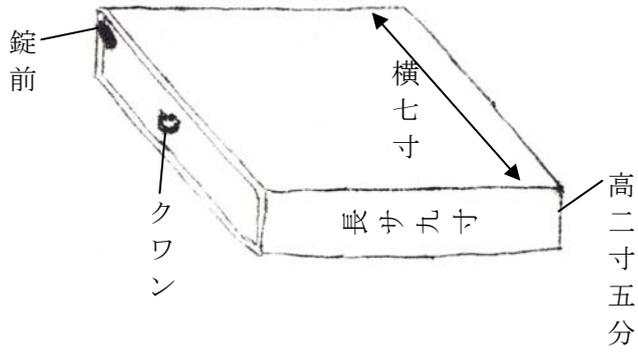
## 腰掛箱

流傳曰此腰掛箱ト云モノハ洛陽大佛ノ三十三  
間堂ヲ射通ス叟盛ニ行レタレハ此堂ヲ射通ニ  
便宜ナル射事ノ一種ヲ工夫シテ矢数多ク射通  
ヲ射術ノ名譽トセル風俗ト成タレハ其下射矢  
数ノ修行ニ腰掛箱ト云モノ設ケ是ニ居トテ射  
事ヲ爲ハ早ク不勞指矢前ヲ第一トセル射術者  
流ニハ此腰掛箱ノ定製寸法等アリ則射法一統  
ニ圖ヲ掲テ横七寸長九寸高二寸五分ト記シ其  
註解ニ是ハ大内蔵以來出来タル道具也芝矢サ

シ矢ヲイル時コシヲカクル也内ニハ何ニテモ  
弓道具ノ當座可入物ヲ入ル、也此寸法ハ中入  
ノツモリ也セイヒクキ人ハ三寸ニモスヘシ高<sub>キ</sub>  
人ハ二寸ニモスヘシ尤見合スヘシ當時尻痛故  
半疊ニシタルモ有キト見ヘタリ大内蔵トアル  
ハ吉田大内蔵茂氏ノ叟ナルカ此人ハ大蔵派ノ  
一派ヲ組立其末流今當ニ傳リテ甚盛ナリ其流  
風蓮華王院ノ御堂ノ斬端ノ下ヲ射通叟ニ目ヲ  
附指矢前ト云モノヲ眼目ニ修行セリ茂氏此射  
事ニ日夜氣魂ヲツヤシ其妙ヲ得テ京一ト呼タ

ル射人ナレ氏武術ノ本意ヲ失タル大先生ナレ  
ハ此腰掛箱モ大内蔵カ工夫ナル夏ウタカフヘ  
クアラス左ニ其圖ヲ模ス

射法一統ノ圖



## 手當

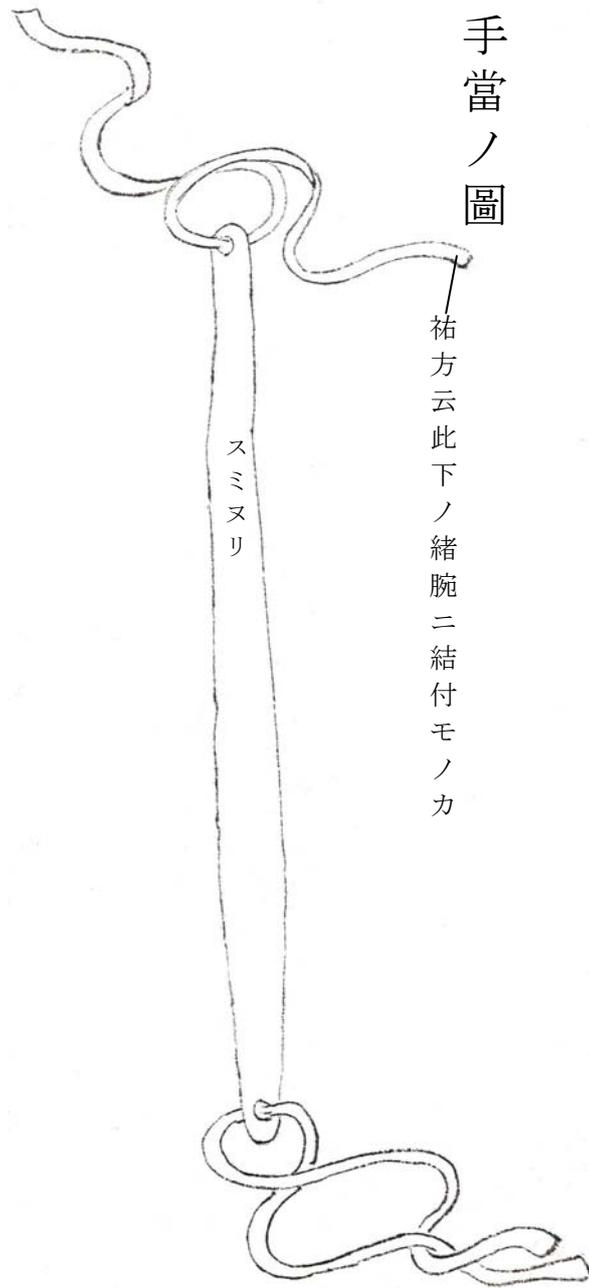
流傳曰此手當ト云モノ射法一統ニ圖ヲ顯シ是  
ハ近代ノ物ナレト弓ケイコスル人ノ格物ノタ  
メニ圖ヲアラハスモノ也竹力鯨ノ髭ニテスル  
長五寸ト云云此物弓稽古セルニ如何ナル得ア  
リテ作りタルモノニヤ其辨古何トモ不記ハ詳  
ラカニ知レカタシ其圖下ニ模写ス可見殊ノ外  
珍(珍) 珎器ナリ其用何方知サレハ真偽利害損益ヲ云  
ハン様ナシト云ト此圖ヲ以テ擦スルニ其形ハ  
粘篋ノ先ノ如ク本末ヲ丸シ削リ兩端ニ穴ヲ明

ケ其穴ニ小キ緒ヲ通シタリ此緒ヲ押手ノ臂ノ  
弱キ曲ル者ヘ付サセ一ノ腕ニ腕ニ結付臂ノ  
助セルモノカ又ハ勝手ノ小腕折ルヲ嫌ヒ腕首  
ノ蝶番ニ結付モノトナランカ既ニ日置流射形  
口傳吉田流弓大事等ニ臂詰ノ傳ト云亘アリ勝  
手ノ臂尻下リ横一文字ノ形ニナラサル人ニハ  
右ノ袖口ヲ臂ニ卷込ミ詰物ヲシテ臂尻ヲ芘サ  
セルヲ云ナリ實事ヲ失ヒ形而已取繕フ射則モ  
アレハ手當ト云モノモ此等ノ類ナランカ弓稽  
古ノ格物トアレト實事正路ノ射則ニテ云フ時

ハ拵物ニハアラテ妄物ト云ヘシ何様正路ノ射  
術稽古ニハ不用ノモノト知ヘシ

手當ノ圖

祐方云此下ノ緒腕ニ結付モノカ



## 肩當革

流傳曰此物一名胸當革トモ云ナリ堂射別種ノ  
射事行レシ此方ノ巧ニテ決テ古昔ノモノニハ  
アラス其製ハ肩ニ當所ハ鹿ノ和革ニハンヤヲ  
中込ニシ胸ニ當ル革ハ牛革ヲ二枚合テ共皮ニ  
テ笹縁ヲトリ漆塗ニシ革なわ紐ヲ付此紐ニテ結ヒ  
留ルナリ射法一統ニ圖ヲ出シタレ凡畧圖ナレ  
ハ改メ左ニ圖ス委敷ハ圖ニテ知ヘシ此モノ用  
ハ堂射下稽古指矢ヲ射ル時胸ニ弦ノ當ルヲ制  
シ或ハ勝手ノ付コヽ口ノ悪モノニ當セテ射サ

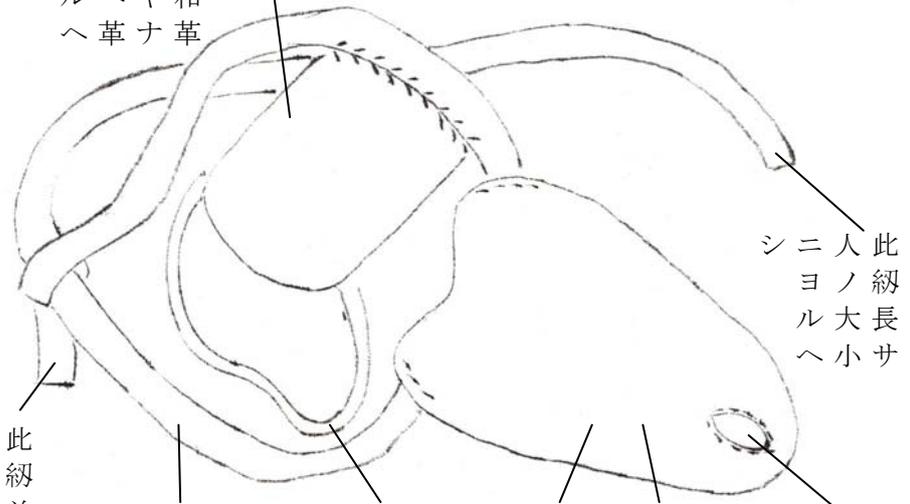
セハ付心ヨシト云ヘリ堂射而已ニ目ヲ附テ此  
射事ニ便利ヲ工夫シタルモノニテ名聞虚躰ノ  
堂射ヲ事トシタル弓家者流ノ専用セルモノニ  
テ實事正路ノ修行ニハ是モ不用ノモノト可知

### 肩當革ノ圖

射法一統ニ見タル  
ヲ改メタル圖ナリ

此綑右ヨリ後口ノ方ヘ  
左ノ脇腹ユ廻リ前ヘ取  
テ胸當革ノ穴ニ通ヨキ  
ホトニ結トムヘシ

肩ニ當鹿ノ和革  
 中込ニハシヤナ  
 ト入ルフスヘ革  
 黒革好ニヨルヘ  
 シ



此綯長サ  
 人ノ大小  
 ニヨルヘ  
 シ

此穴ニ後脊ヨリマハル  
 緒ノ綿ヲ後口ノ方ヨリ  
 通シヨキ程ニムスブ

胸當皮ト云此所表ノ方  
 ニテ胸ニ此通アタル也

此皮ハ牛皮ニ枚合せ共  
 皮ニテ笹ヘリヲトリ漆  
 ヌリニスルナリ

此綯モ鹿ノ和革ナリ右  
 ノカヒナヲ通ス脇ノ下  
 ニアタルナリ

此所右ノ脇腹ニアタル

此綯前後凡ニ平ウチノ緒ヲヨ  
 シトス此引合ノ所右ノ肩下ニ  
 アタル

祐方云一貫先生ノ改メラシ此圖此綯平  
 ウチトアルハフシン本ノマ、写ス

## 張臺

流傳曰張臺ト云モノハ弓ヲ張ル臺ナリ長サ五  
六尺斗幅モ七八寸斗厚サ四五寸斗此大成木ニ  
弓形ノ溝ヲホリコミ高一尺四五寸ノ足ヲ二所  
ニ付タルモノナリ彼ノ弓形ノ樋溝ニ弓ノ末弭  
ヲ指込ミ本弭ヲ左右ノ手ニテ下ナリニシリク  
ト押ハ弓タハミテ弦掛ルホトニタハマリタレ  
ハ右ノ手ヲ放シ左ノ手斗ニテ押ヘ口ニ喰タル  
下ノ弦輪ヲ右ノ手ニテ取り本弭ニ掛テ張ル様  
ニ作タル臺ナリ元來此張臺ハ弓工ノ取扱モノ

ニテ射手ノ用ユルモノニハアラス射手ハ膝張  
セルモノナリ勿論強弓ハ一人シテ自由自在ニ  
押張<sup>マ</sup>ハナラス多人数ニテ張ヘシ古軍記古物  
語ナトニ三人張四人張五人張等ノ強弓アル事  
跡ヲ以テモ考ヘシ今當ノ師範者ノ家ニテモ希  
有ニハ少シ厚分ノ弓ハ弓工ニ張臺ニテ張ナト  
セル族モ少カラス小村<sup>マ</sup>漿束ヲ作タル弓ヲ臺張  
ニセルハ射手ノ耻ヘキ義ナリ委クハ前章弓張  
ル条ト互見スヘシ

## 弓臺

流傳曰弓臺ト云モノハ今當大名旅行ノ時或ハ  
其家々ノ大夫職又ハ大祿ノ臣ナトモ弓矢ヲ盛  
テ弓足輕小者等ニ荷<sup>カタカシ</sup>メ持<sup>セ</sup>ル莊弓ノ具ナリ竹林  
派弓書ニ二張立一張立ノ二品ヲ出シテ尾花矢  
籠ト記タリ其製ハ弓ヲ二張左右ニ莊付矢ハ矢  
筒ニ藏シ真中ニ上ヨリ指込ミ矢筒ノ巡リニモ  
矢ヲ躰シ指ス様ニシタル製ナリ是ヲ尾花矢籠  
ト云ハ誤ナリ前章ニ如述尾花矢籠ノ製ハ別品  
ニテ二張立ノ弓臺ト云モノナリ一張立ノ事ハ  
下ニ出ス見ルヘシ又二張立ニモ異品アリ弓ニ

張ニ射手矢籠ニツ

祐方云矢籠ニハ  
矢ヲ盛テ莊ナリ

組合スル製

モアリ又弓ニ張ニ空穂一ツ莊付ル製モアリ此

ニ張立ヲ以テ上品トシタレハ抱木ノ下地ハ朴

ニテ造リ地ヲシテ上塗ヲ赤モ黒モ青モスルア

リ又ハ槻ノ木理アル木ニテ造リ木理ヲ顯シテ

塗タルモアリ所好ニヨリテ一樣ナラス又根隠

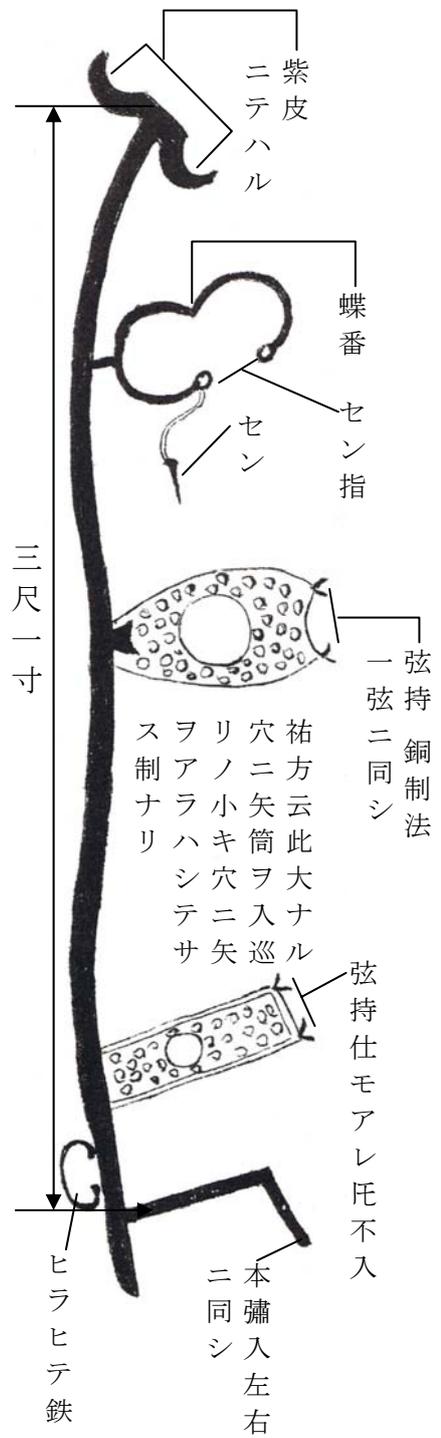
革弦ト革羽袋革弭冠革ハ牛滑ニテ作り漆ヲ以

テ赤モ黒モ青モ塗り金箔ニテ紋所ヲ置キ唐草

サヤ形ナトノ模様置タルモアリ紋所ハカリ置

縁金ニシタルモアリ或ハ無紋ニテ模様而已置

タルモアリ又ハ惣金ニシテ紋所縁ナトヲ黒ク  
シタルモアリ是モ人々ノ好ニ任ヘシ又金物ハ  
減金金銀不定真鍮銅ナトニテ作り手彫クサラカシ  
ナトニシタルモアリ一樣ナラスト知ヘシ元來  
此弓臺ニ弓矢ヲ組合テ掛シムル事ハ近世ノ風  
俗ニテ弓矢ヲ美々シク莊立行烈ヲ取繕ヒ賑々  
シクセル而已ニテ武士ノ實事ヲ失タル義ナリ  
猶委シクハ前章遠路弓持様トアル条双見テ知  
ヘシ左ニ二張立ノ圖ヲ頭ス熟見スヘシ



右ニ横写シタルニ張立弓臺ノ圖ハ竹林派弓書

ニ尾花矢籠ニ張立トアル圖ナリ此制ハ弓ニ張

左右ニ立的矢ヲ矢筒ニ入レ真中ノ大ナル穴ニ

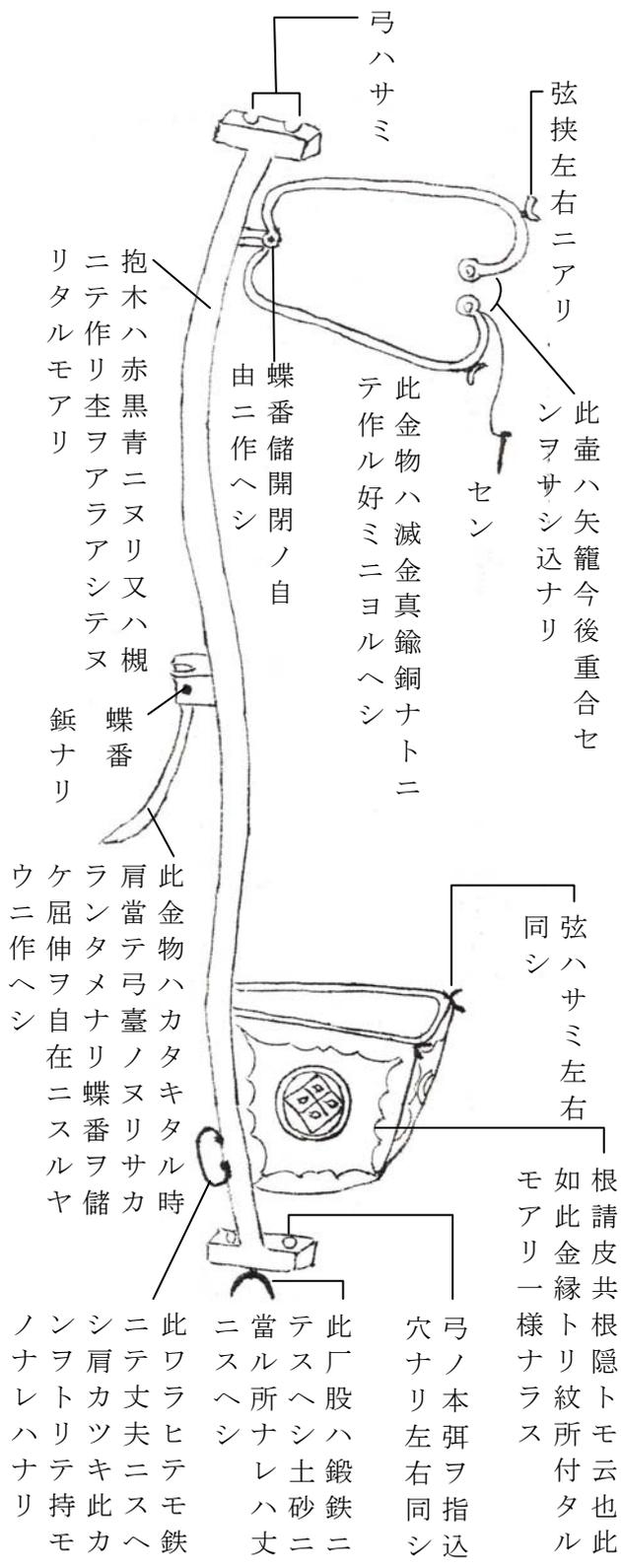
指込ミ矢筒抱ノ金物合セ詮ヲサシテ留ナリ廻

ノ小キ穴ニハ矢ヲ顕テサスナリ但シ此矢配ヲ

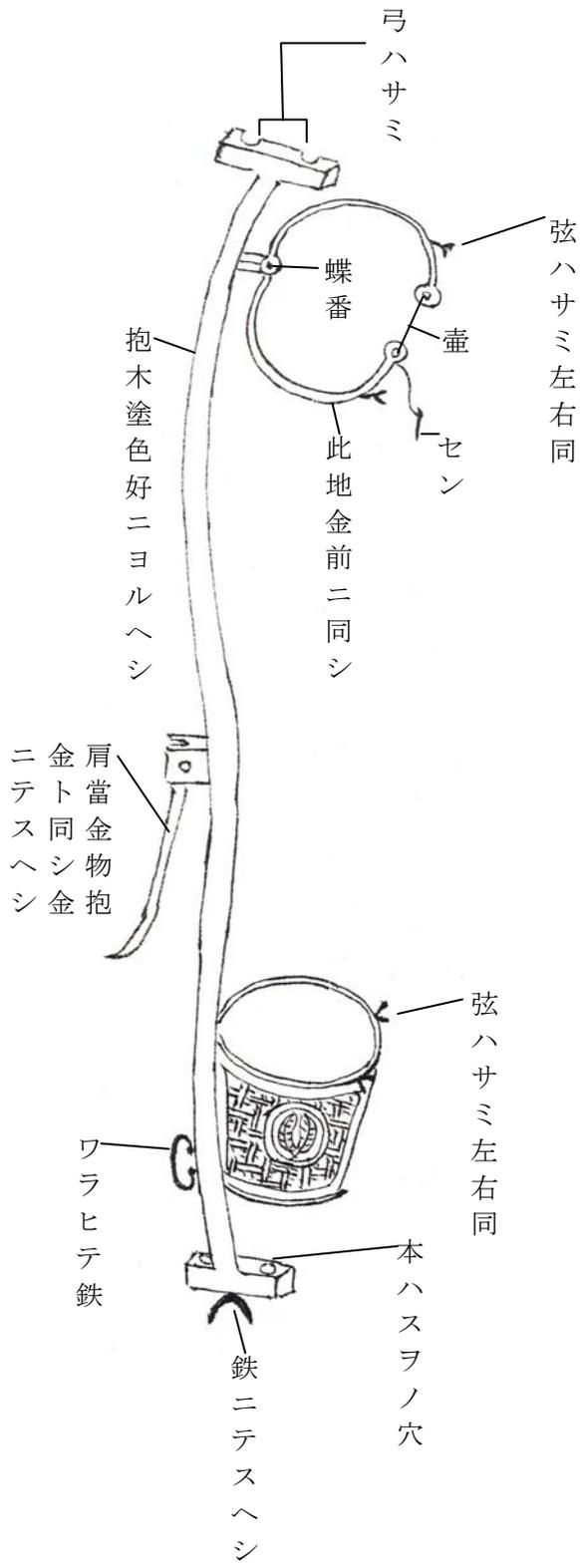
儲タレハ上ノ抱金物ハ不用ノモノニテ作ニ不

及矢配ヲ此金物ノ所ニ付タルモ可トスヘシ又  
 此弓臺ニハ羽袋皮ハ不用弭冠弦ト而已ヲ用ヘ  
 タルモノナリ莊様ハ孰モ同シ事ニテ別ニ子細  
 ナシ下ノ圖ニテ知ヘシ又左ニハ弓ニ張射手矢

籠ニツ組合スル臺ヲ圖ス

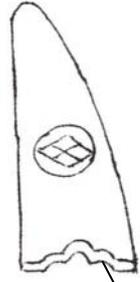


右二頭シタル所ノ圖ハ弓二張ニ征矢ヲ擲タル  
 射手矢籠ニツ莊合スル弓臺ナリ此弓臺ニハ弭  
 冠弦メ羽袋皮ヲ用ヘテ莊付ナリ莊様異ナルヘ  
 カラス又弓二張空穂一ツ組合スル臺左ノ如シ



右ニ模ス圖ハ弓ニ張モ征矢ヲ上指トモ空穂ニ  
 盛り組合スル制ナリ此弓臺ニモ弭冠弦メハカ  
 リニテ羽袋皮ハ用ヘサルナリ莊様右ニ品ニ異  
 ナラス左ノ弭冠弦ノ羽袋ノ圖ヲ顯ス

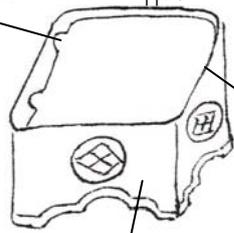
弭冠皮



如此縁ヲトリタル  
 如クスヘ此所ニ金  
 ニテ置タルモアリ  
 弦メ羽袋同シ

此弭冠ハ二ツ一對ニス  
 ルナリ一張弓ニ別々ニ  
 冠シムナリ

弦メ皮



此方ノ左右ニ弦入ヘキ料アリ

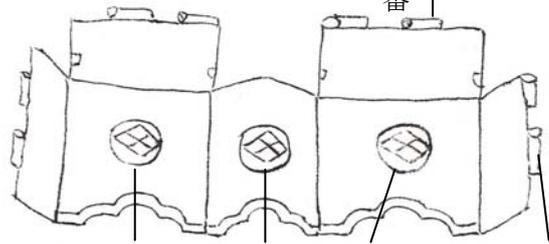
此廻リハ  
 木ニテ作  
 ヘシ

塗色不定好ニヨ  
 ルヘシ

此所ニ弓ヲ入ルハナ  
 リ左右同シ

# 羽袋皮開タル圖

上ノ方蝶番  
左右同

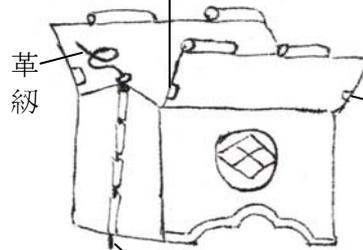


弦ノ方ヨリ左右ヲ廻シ弓ノ外竹ノ方ニテ合セ此所ノ管ニセンヲサスヘシ銚ヲサシタル圖下ニ出ス見ヘシ

前ハ弦ノ方也

向テ左弓ノ内ノ方

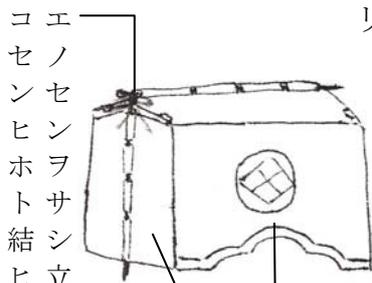
左右引廻シ後ニテ立銚サシタル圖



此切込ハ弦ノ入料ナリ左右同シ

如此センヲサシ其ヨリ上ヲ合テ次ノ圖ノ如又

上ノ方ヲ引合テセンヲサシタルノ圖ナリ

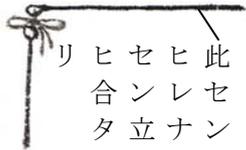


弓外ノ方ナリ

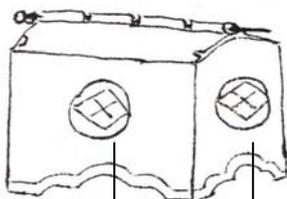
此所ハ弓ノ外竹ノ方ナリ

エノセンヲサシ立センノヒホトヨコセンヒホト結ヒ合セヨクナリ

立セン横センサシテ前ヨリ見タル所圖ノ如クナル也



此センハ鯨ノヒレナリヨコセン立セン結ヒ合タル所ナリ



弦ノ方前ナリ

弓ノ内ノ方也

右ニ圖ル弭冠弦ノ羽袋等ヲ以テ二張立ヲ莊ン  
様ハ矢筒ニテモ矢籠ニテモ空穗ニテモ先ツ矢

ヲ盛リ弓臺ノ抱金ノ銚ヲ拔キ押開矢室ヲ入レ

此時下ハ請皮ニ  
指込テ留ルナリ又元ノ如ク壺ヲ合セ銚ヲサシ

テ抱ヘサセ左右ニ弓ヲ立上下ノ弓挟ミ弦挟ミ

弓モ弦モ能クハサマセ夫ヨリ弦モヲ末弭ノ方

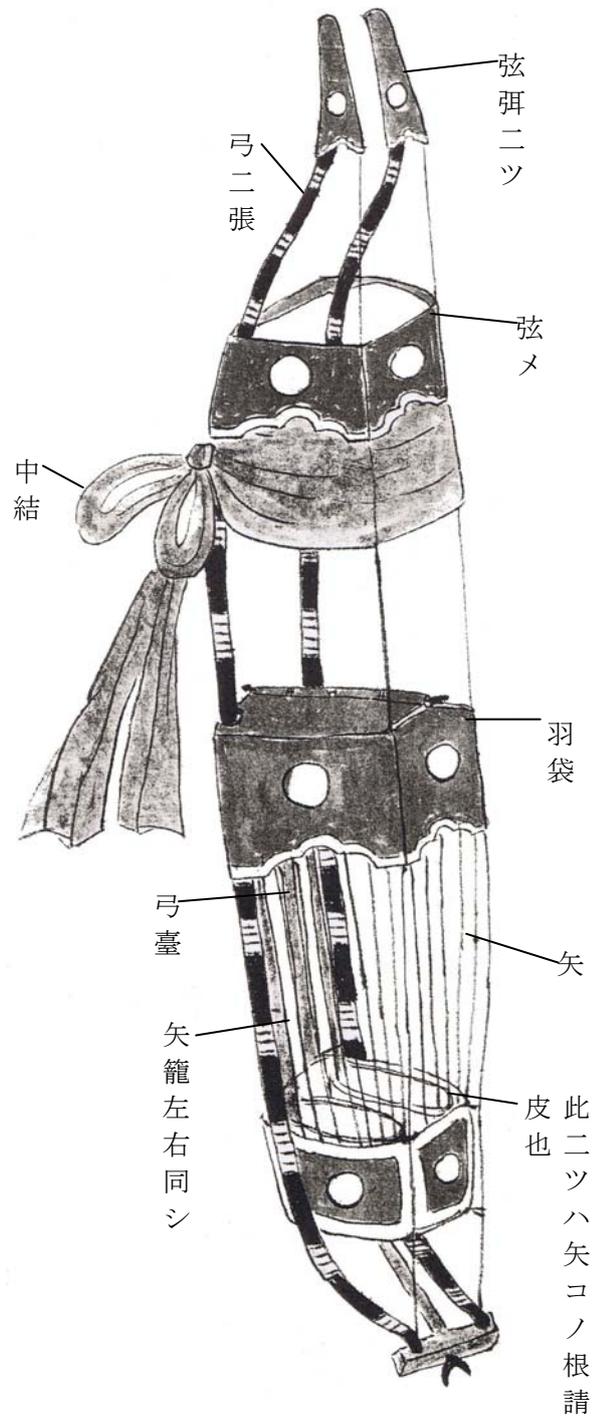
ヨリ被<sup>カムラ</sup>セ弓ヲ指込テ姫返<sup>セリ</sup>ノ少シ下邊ニテ二張

ノ弓ヲ固ナリ羽袋皮ヲ用レハ此時掛ヘシ<sub>羽袋皮ハ</sub>

弦ノ方ニ當テ兩側ヲ廻シ外竹ノ方ニ壺ヲ能合  
セ立センヲサシ夫ヨリ上ノ方蝶番ノ壺ヲ合セ  
ヨコセンヲサシ立セントト  
様セン革紉結ヒ合セル也又羽袋皮用ヘサレハ

此所ニテ弭冠ヲ掛ヘシ夫ヨリ中結ヲスルナリ  
中結縮緬一幅長サ不定大概七八尺斗色モ不定  
多分紫薄藍ヲ用ル結様ニ二折リ真中ヲ取テ弦  
ト弦ノ間ニ當兩端ヲ弓ノ方ヘ廻シ弓ニ一纏卷  
テ兩端取合セ兩締ニ結也又弦ニ不卷弓斗ニ一  
纏ツ、シテ結ヒタルモアレ氏中結ハ弓ヲ固ル  
タメニセルモノニテ如此結タルハ其用ナリ觀  
美而已ニセル中結ト知ヘシ又替弦ハ胴乱ニ藏  
シテ所用サセシムレ氏弦卷ニ卷テ持シムル者  
モアリ其時ハ中結ノ下弦ト弦ニ革紐ニテ結ヒ

付ヘシ莊タル圖左ノ如シ

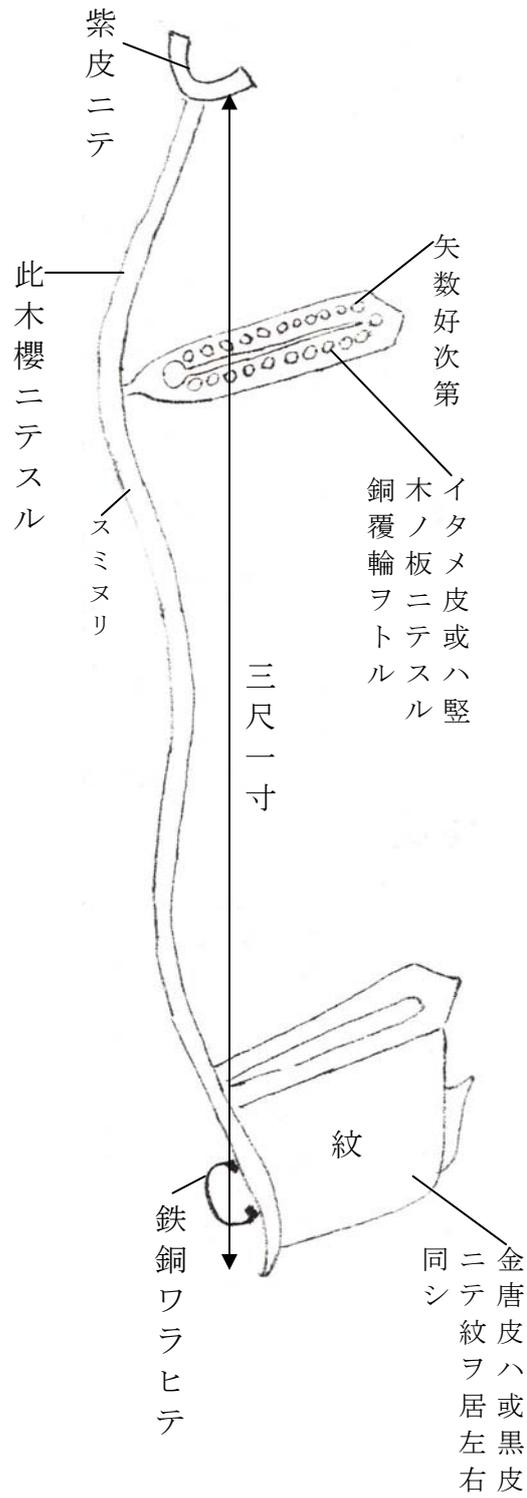


右ノ圖ニテ其大概ヲ考ヘシ矢筒空穂ヲ組合ス

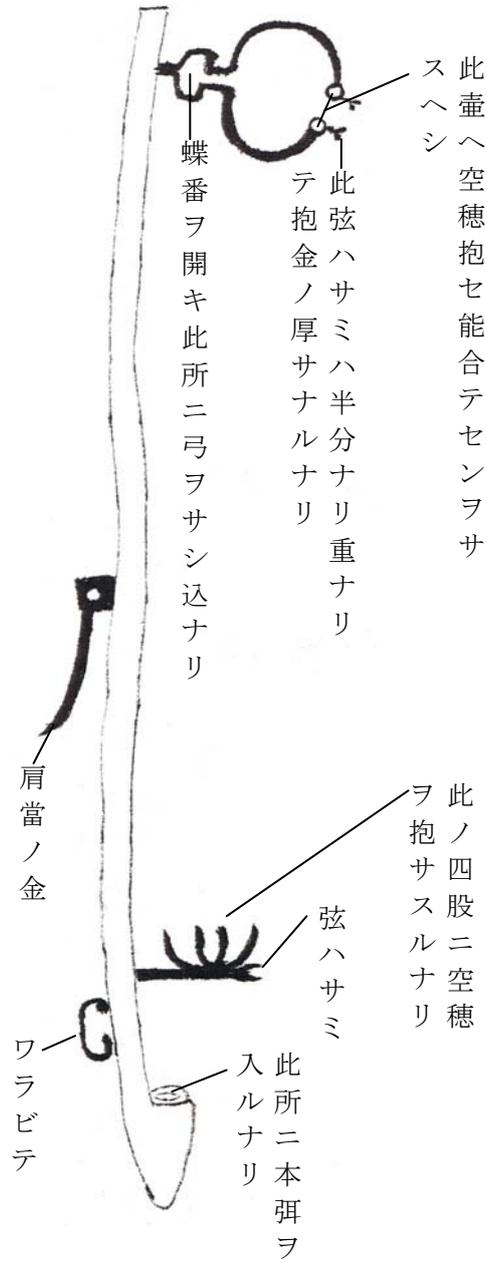
ルニハ羽袋革ヲ不用迄ノ差ニテ其余ハ異ヘカ

ラス又一張立ト云モアリ竹林派弓書ニ尾花矢  
籠一張立トアル是ナリ其制ハ抱木ヲ朴ニシテ  
黒クモ赤クモカキ合塗ト云モノ塗り或煤ヌリ  
ニシタルモアリ上ニ矢配ヲ板ニテ作り中ニ弓  
一張立左右ニ矢ヲサス様ニシタル制ナリ此一  
張臺ト云モノハ籠物ニテ数弓数矢ヲ組合テ旅  
行ノ時八十肩一對二十肩對ニ作り持シムルモ  
ノナレハ全躰畧制ニテ詰構ヲツクシタルモノ  
ニハアラスト知ヘシ左ニ竹林派弓書ノ圖ヲ模  
ス熟味スヘシ

右ニ圖スル一張立ハ竹林派ノ書ニ見ヘタル所  
 ナリ又数弓一張数空穂一ツ組合ル臺モアリ此  
 制ハ抱木ハ前ニ如述上ニ抱金ト云モノ儲下ニ



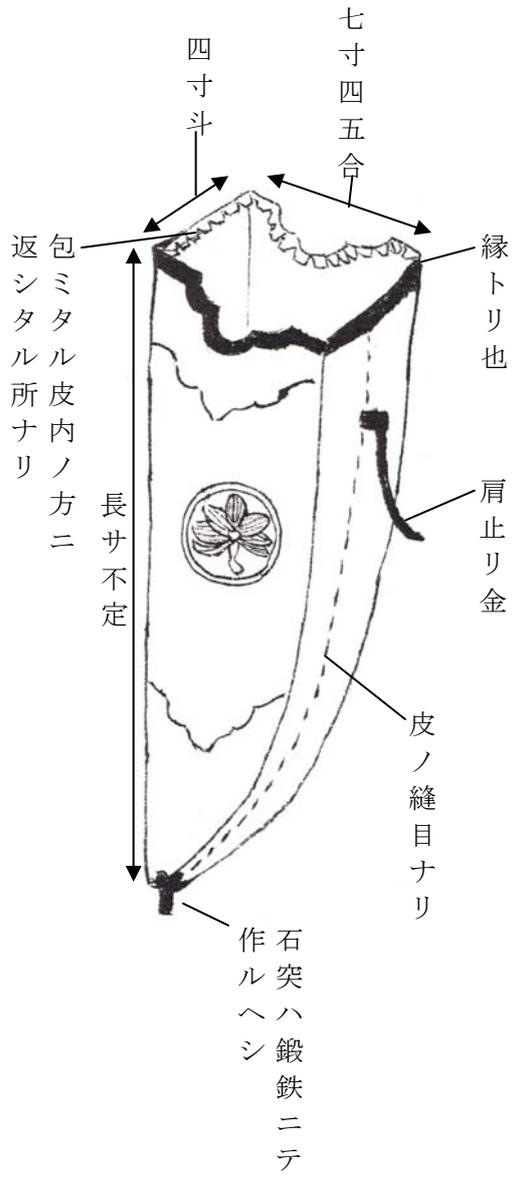
ハ請金物アリ此一張立ノ金物ハ鉄ニテ作り漆  
 ニテヌリタルモノナリ組合様何モ子細ナシ二  
 品氏異ナルヘカラス但シ弭冠弦メ羽袋等ハ用  
 ユル不及左ニ圖ヲ出ス



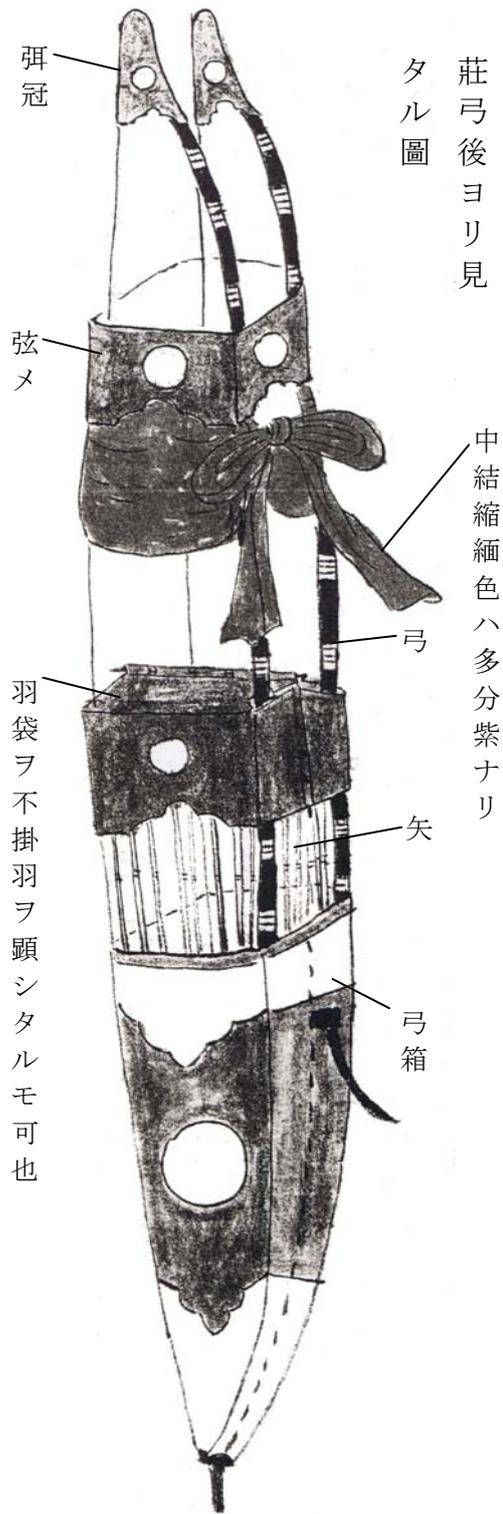
## 被革

流傳曰此物ハ一物ニシテ被皮共弓箱共はこ立共  
云ナリ勿論古キ書ニハ不見當今世ノ巧ニテ弓  
臺ノ異製ト云マテニテ其用ハ同シ弓矢ヲ組合  
セ旅行セル時弓足輕ナト云者ニカタカシメ持  
スル器ナリ其製ハ下地ヲ桐ノ薄キ板ニテ小口  
ノ廣サ大概七寸五六分横四寸斗ノ弓形成ノ筥  
ヲ作り馬皮滑ニテ包ミ漆以テ赤モ黒モ青モ塗  
リ金箔ニテ紋所上下ニ雲形ナト置タルモアリ  
或ハ模様ナトカキタルモアリ又金物モ滅金真

鍬四分一銅等所好ニ任セ一様ナラス前ニモ云  
 如ク弓臺此被革ナント云モノ類ニ弓矢ヲ組合  
 シテ持シムル叟ハ近世ノ風俗ナレトモ徒ニ弓  
 矢ヲ持シムルト云迄ニテ旅行莊觀ナリ實事ヲ  
 失タル事也猶委シキハ遠路弓持様互見スヘシ



右ニ圖スル攸ノ被革ニ弓矢ヲ組合セ莊付タル  
 所左ノ如シ矢ハ射手矢籠ニツニ盛り弓ト弦ト  
 ニ挟セ置此被革ニ指込ミ弦メ革ヲ掛テ固ナリ  
 弭冠羽袋中結等ハ其主ノ所好ニヨリテ不用モ  
 アリト知ヘシ



弓雨皮

流傳曰弓雨皮ハ雨降りニ莊弓ニテモ只張弓ニ

ニテ掛テ雨露ヲ凌具シノクニテ今俗桐油トモ雨袋ト

モ云モノナリ射法一統ニ圖ヲ掲テ兩革唐油ニ

テモスヘシトアリ上品ナルハ紗綾ノ蠟引或ハ

布ノ蠟引ナトニテモ作ルナリ麤制ナルハ生漉こし

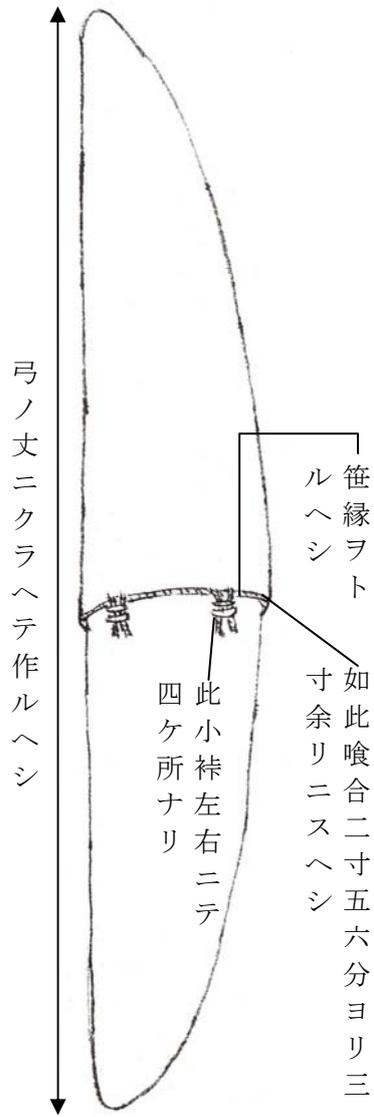
ノ厚キ紙ヲ能々揉抜キ油仕立ニスルナリ祐方云絹

布ノ類ニテ縫タルハ一重ナリ紙ニテセル時ハ裏ヲ付テ二重合ニスヘシ紙ハ弱キテ損シ易シ

色ハ黒漆青漆不定或ハ金箔ヲ以テ紋所付タル

モアリ無紋ナルモアリ又ハ黄色ニ紋所ヲシタ

ルモアリ長サ廣ハ弓ノ長短ニ順テ定マラス張  
弓ノ形ノ如ク縫ヒ握ノ少シ上ニテ小袴掛ニテ  
留様ニ作ヘシ其形左ノ如シ委ハ圖ニテ知ヘシ

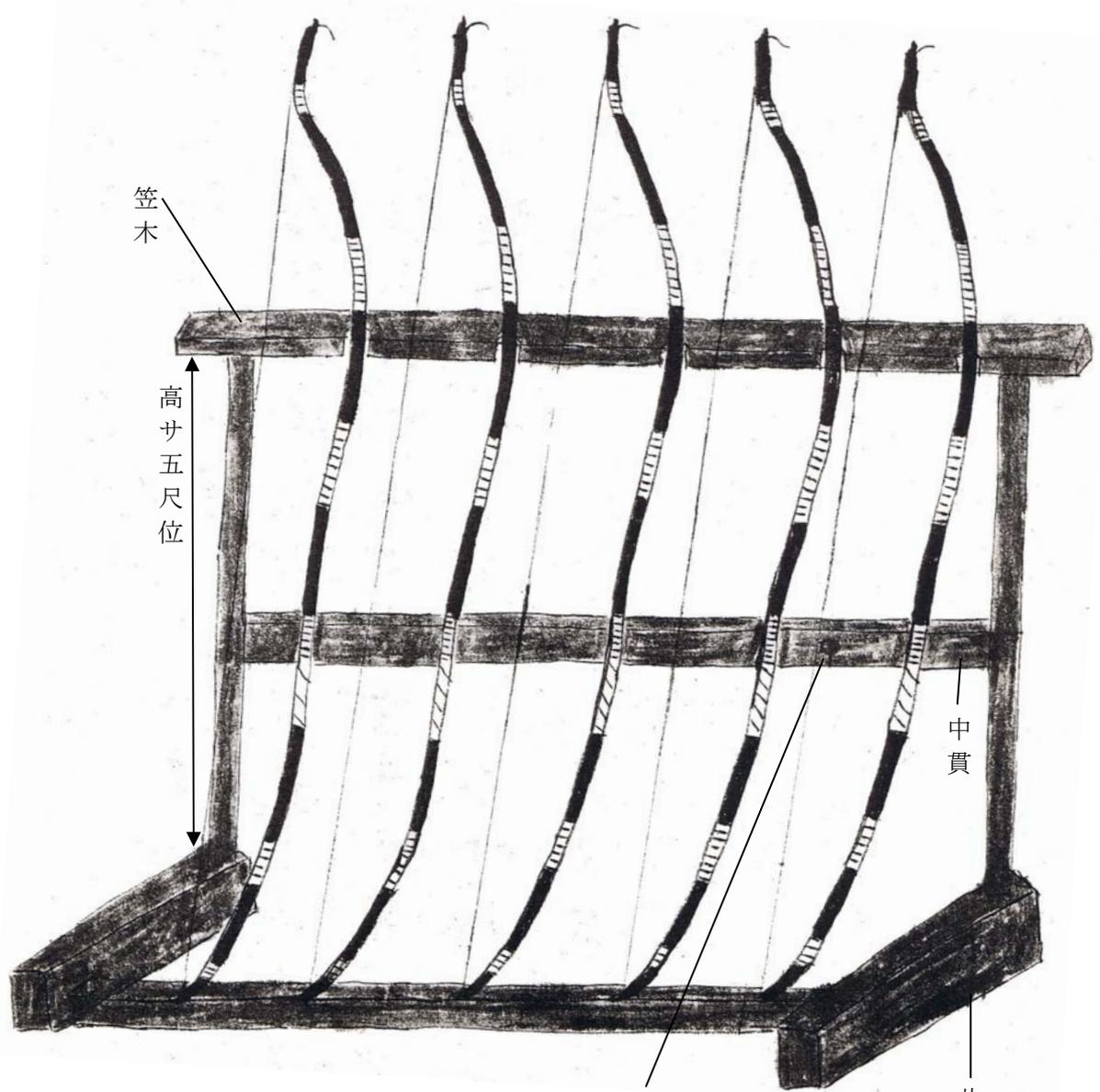


## 弓懸

流傳曰弓掛ト云モノ武用辦畧射場ノ圖ニ今當  
堺ニ作ル柵ト云モノ如圖シテ弓掛ノ埒ト云或  
弓立共云トアリテ寸法製作ハ不記射法一統ノ  
射場ノ圖ニハ前ノ方ニ長<sup>サ</sup>ハ人数次第高一尺二  
寸五尺五寸ト而已アリテ巨細ニハ不記竹林派  
弓書ニ弓掛ハ白木ニ可致貴人ノ御弓掛ハ別ニ  
可致貴人兩人アラハ是ハ一所ニスヘキ也トア  
リテ立弓掛横弓掛ト二品圖ヲ出シタリ射法一  
統ニ高<sup>サ</sup>一尺二寸トアルハ此横弓掛ノ高ノ寸カ

又五尺五寸ハ長サ人数ノ多少ニテ不定ト雖其  
大概ノ長ヲ云タル叟カ考ヘシ此等ノ書ニ見タ  
ル所ハ勸進的京的江戸的ナト云モノ、射場ニ  
用ヘタル弓掛ナリ番所等ニ弓矢ヲ備置タル時  
ノ弓掛モ立弓掛ト云モノ制ニ大概異ナルヘカ  
ラス此立弓掛ノ寸法高サ五尺中貫迄三尺八寸  
横六尺ハカリト竹林派ノ書ニ見ヘタレハ此等  
ノ寸法ニヨリテ作ルヘシ定法アルヘカラス但  
シ番所ナトノ弓掛ハ白木ニテアシ、漆ニテ塗  
ヘシ塗色ハ定マラス又此弓掛ト云モノ何ノ頃

ヨリ有シモノニヤ其始ハ詳ナラス漸ク高忠聞  
書ニ弓かけに弓を懸るには末弭の方を北へか  
けぬ也其外は無子細なりト見へタリ此弓掛ハ  
今當ノ弓掛ノ制ナルカ詳ナラスト雖弓掛ト云  
モノ名ノ見へタルハ新シカラサルヲ悟へシ差  
知レタルモノナレト便見ノタメ其圖ヲ左ニ顯  
ス見へシ



笠木

高サ五尺位

中貫

此臺ハ大ナル木ニテスヘシ

番所ニ弓矢ヲ備置ニハ此弓ト弓間ニ空穂ヲ中貫ニモタセ置ナリ

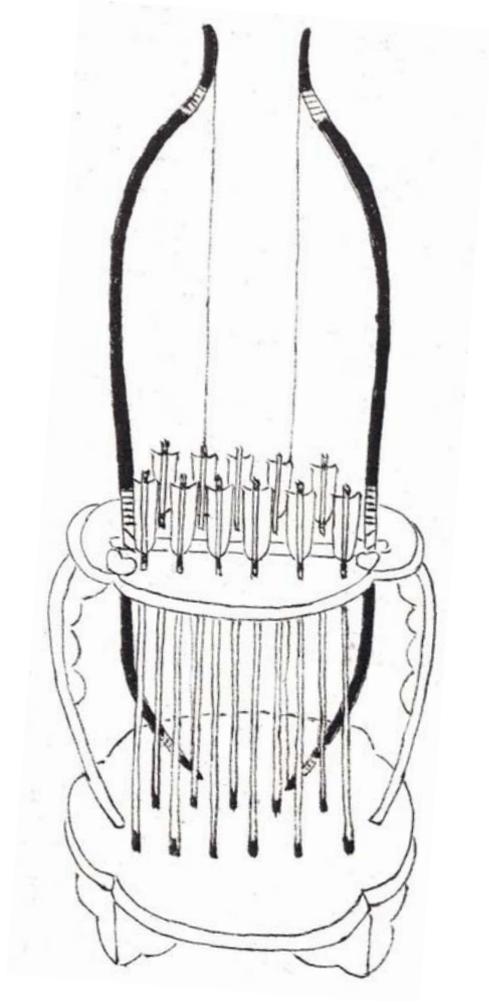
## 弓矢臺

流傳曰弓矢臺ト云物ハ弓矢ヲ組合セテ指竝ヘ  
床ナトニ莊置ク臺ナリ其製ハ板ヲ丸クシテ四  
所ニ隅ヲ入レ猪ノ目ヲ透シタトヘハ葵鏝ト云  
モノ、形ニ似タリ又畧製ナルハ隅ヲ不入猪目  
透シナキモアリ此板ノ真中ニ長キ樋ヲ彫抜キ  
弓ヲ指込料トシ左右ニ矢ヲ立ル穴ヲ数多明ケ  
外様ニ曲ミタル柱ヲ左右ニ立ル下ノ臺ハ上ノ  
板ニナラテ四所ニ隅ヲ入タレハ隅ヲ入レ四所  
ニ足ヲ付漆ヲ以テ赤モ黒モ塗り或ハ金虫喰摺

ハガシ礮草ナトニ塗タルモアリ或ハ木理アル  
木ニテ作り木理ヲ顯シテ塗タルモアリ一様ナ  
ラス武用辨畧ニ弓二張向合テ指シ左右ニ矢ヲ  
十一筋指タル圖ヲ出シ弓矢臺ハ百矢臺トモ云  
高三尺三寸弓ハ二張也トアリ弓矢臺ト百矢臺  
ト同物ニアラス百矢臺ト云モノハ別品ナリ則  
下条ニ出ス往テ見ヘシ高サ三尺三寸トアルハ非  
ナリ足ノ高五寸トシテ夫ヨリ上二尺八寸トナ  
ル此尺ニテハ矢尺ニモヨル叟ナレト普通人ノ  
矢尺ニテハ本矧ヨリ上迄指込ミ羽折テ甚タ不

可ナリ考モナキ寸法也此弓矢臺ト云モノヲ作  
ラントナラハ矢ヲ指タル所本矧ヨリ下二三寸  
ホト頭ル、ヲ可トスヘシ元來此物ハ名聞虚躰  
ノ族六分余ノ弱弓ニ唐木ヲ以テ側ヲ作り或ハ  
嶋柿又ハ異様ノ木理アル弓材ヲ用タル弓ニ矢  
ハウキス。サハシ篋ナトニ異文ノ羽ヲ矧羽中金  
管卷ナト云類ノ種々無量ト恭平ノ詰構ヲ盡タ  
ル觀美ナル弓矢ヲ指並自慢ラシク莊置キ見物  
セルヨリ外ハ用ナキ器ニテ次テ武士ノ實用ノ  
モノニアラス茶器ヲ翫モヒトシキト知ヘシ使

見ノタメ武用辨畧ノ圖ヲ模ス



武用辨畧ニ三尺三寸トアレ凡此矢ヲ  
サシタルニモ考ヘシ三尺三寸ニテハ  
圖ノ如ニ羽ハ不頭積モナキ寸法ナリ  
用ヘカラス

## 百矢臺

流傳曰此百矢臺ト云物逸見ノ弓書ニ圖ヲ出シ  
タリ後左右ノ三方ヲ板ニシテ前ハ上ニ縁ヲ入  
左右ノ側ヲ深クリ込<sub>ミ</sub>下ハ上ノ縁ヨリ廣縁ニシ  
テ四隅ニ足ヲ付タル圖式ヲ顯シ是ハ百矢ノ時  
矢ヲ組テ出ス器也トアリ此圖ヲ以テ考ルニ好  
事ノ弓家者流ナト云族安座ノ巧ヲ以テ作出シ  
タル器ナランカ決テ實事ノ射手ノ取扱フ物ト  
ハ思レス勿論古キ書ニモ不見當弓法秘傳聞書  
二三張と云事百矢張と云は臺に立たる矢也桶

壇張とは箆の矢の子なり梅地張とは尻籠の矢  
の事也ト見ヘタリ此三張ト云事詳ナラスト雖  
百矢張ト云ハ臺ニ立タル矢也トアレハ若シハ  
百矢臺ト云モノニ矢ヲ立タル叟トモナランカ  
此書ハ年月記者ハ不詳小笠原家ノ古書ナリト  
貞丈先生ノ説ナレハ足利家代百矢臺ト云物ア

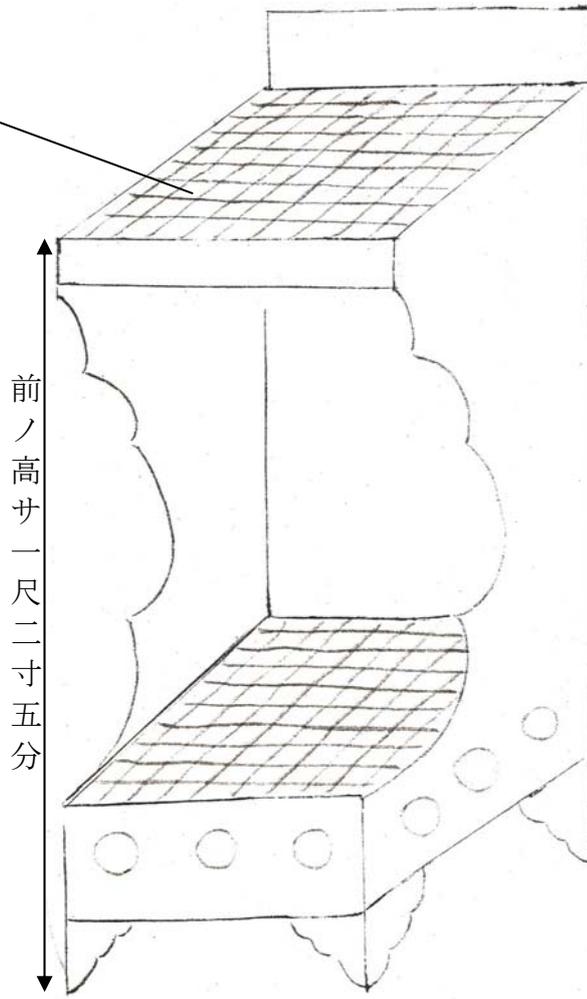
リタル氏ナランカ猶能ク知ラン人ニ尋ヘシ  
方 祐

云逸見ノ書ニ此百矢臺ノ余ニ百手矢臺ト云モ  
ノ圖アリ其制モ大ニ異ナリタルモノニテ別物  
ナリ是ト混スヘカラス筆ノ序ニ其圖ヲ尻ニ追  
加ス是モ決テ實事ニハアラス近世ノ物ト見ヘ  
リ

逸見ノ書ニ見ヘタル百矢臺ノ圖

後板ノ高サ  
一尺三寸五分

矢賦リ上下百  
本矢ノ立ツ様  
ニスル也



祐方云矢賦リ上下ニ矢ヲ百本矢ノ立ツ様ニ  
スル也トアレ氏矢配不見  
此説ニヨリテ如此朱ヲ以テ私ニ矢賦ヲ圖シ  
タリ必ス元圖ニハアラスアヤマルヘカラス

中柱ノ幅八分厚サ七分也  
 端シ一寸五分余ルナリ中  
 ノ矢刺ニハ墓目神頭杯ヲ  
 刺ナリ数ハ不定  
 此矢持幅七分厚サ五分上  
 下同前也上ハ矢刺ヲ内ニ  
 クル下ハ外ニクル也矢数  
 一方ニ五本宛アリ上ノ  
 廣サ二尺四寸四分

此間四本ノ柱  
 四寸五分

捻柱ノ高サ二尺  
 二寸五分太サ七  
 分半四方

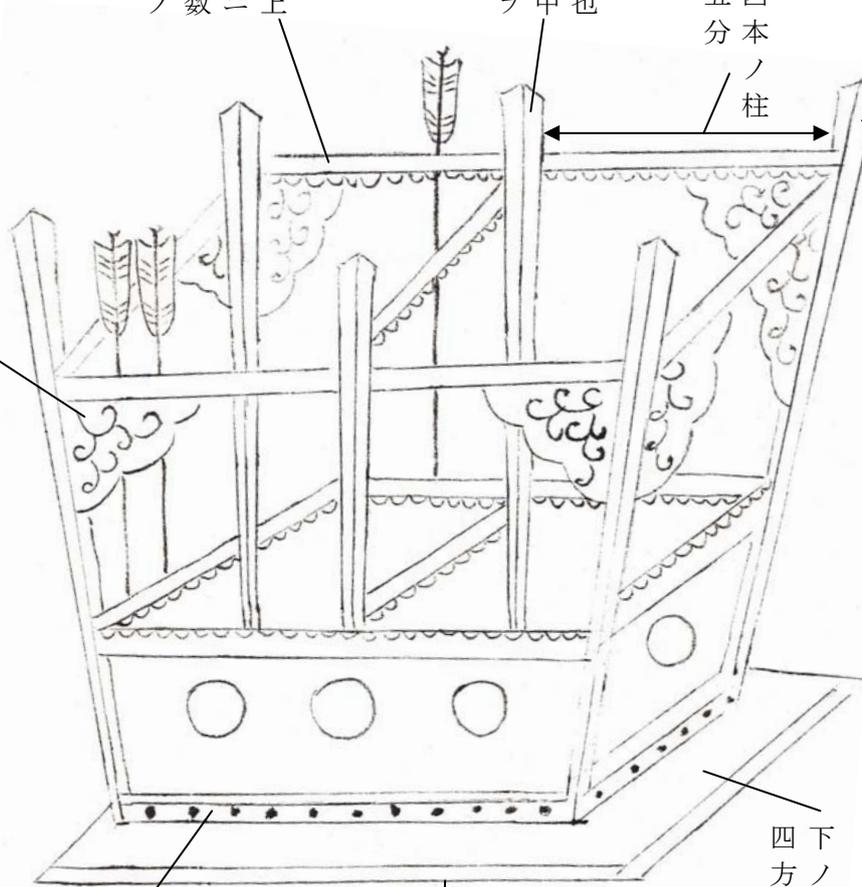
祐方云逸見ノ書ニ百手矢臺之圖トアリ此圖ノ  
 後ニ是ハ百手ノ時又ハ笠懸杯ノ時矢ヲ組テ出  
 ス器也トアリ

四方如此持テ板ニテクリハメニ  
 シテ入ル唐草彫スカスヘシ

下ノ廣サ一尺九寸五分  
 四方底ノ板厚サ二分

足ノ高サ二寸二分  
 板ノ厚サ七分

此根受本幅七分  
 厚サ五分



## 矢屏風

流傳曰矢屏風ト云物ハ二枚折四枚折六枚折ナ

トニ作り矢ヲ指並座敷ノ隅又ハ壁際等ニ建置

ク具ナリ當射要録

中川蝸牛斬力著述ノ書ナリ  
延宝四時雨降月ノ中ノ八日ト有

ニ矢屏風矢車等ニハ定法ナシ数ノ多少ニヨリ

テ六枚折又四枚折又二枚折ニモスルナリ兎角

矢ノ立テ拔刺ノ自由ナルヲ肝要トスルナリト

云云此等ノ雜器ニ定制ナトハアルヘカラス便

宜ヨク心任ニ如何様ニ成トモ作ルヘシ勿論射

手ノ必用ノ具ニハアラスト悟ヘシ

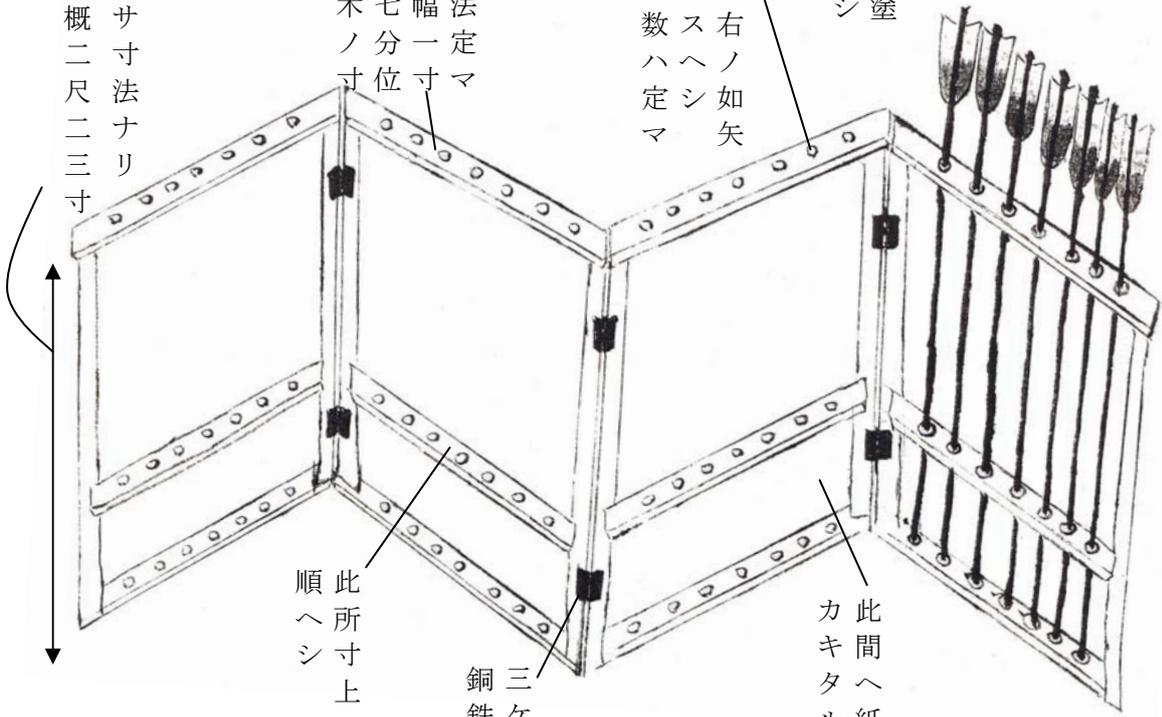
# 矢屏風四 枚折ノ圖

惣躰ヲ黒クモ赤クモ塗  
ヘシ 籠制ハ煤ヌリニシ  
タルモアリ

此穴右ノ如矢  
ヲサスヘシ  
穴ノ数ハ定マ  
ラス

穴木ノ寸法定マ  
ラス大概幅一寸  
斗厚サ六七分位  
柱ノ太此木ノ寸  
順ヘシ

高サ寸法ナリ  
大概二尺二三寸



此間へ紙ヲハリ繪ナト  
カキタルモアリ

三ヶ所共蝶番真鍮  
銅鉄好ニヨルヘシ

此所寸上ノ大サ  
順ヘシ

## 矢車

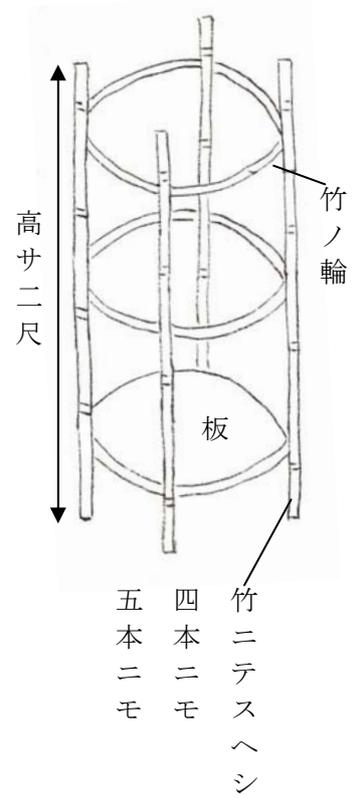
流傳曰矢車ハ的射ノ時矢取ノ者持來ル矢ヲ入  
ヲキ或ハ此矢車ニ矢ヲ入レテ持運セル器ナリ  
武用辦畧ニ矢車是ハ矢ヲ入置也豎木三本アリ  
輪ヲ入テ底ニ板アリ下ノ輪ヲ平頭返ト云上輪  
ヨリ二寸上へ豎木出ル上下ノ輪ノ間一尺下ノ  
輪ヨリ地付迤一尺ニシテ板土入ヨリ上ハ六寸  
ト知ヘシ畧様ニハ竹ニテモ造也惣高豎木三尺  
余土ニ入分ハ四寸計也尋常ノ物ナル故圖之ヲ  
畧スト見ヘタリ此製ハ地ニ指込ミ作付ニシタ

ルニテ不便利ナリ竹林派弓書ニ圖ヲ出シ所敕  
ノ矢車ハ足ナシニスヘシ惣シテ是等ノ器ニ定  
制無好ニ竒ルヘキモノナリトアリ所敕ハ述的  
ノ時ノ事ヲサシテ云タル詞ニテ射手大勢集テ  
ハ矢数多クナル故ニ矢車ハ輕キモノナレハ片

アシアリ

ヨリナ足有テハ返レ易シ足ナキヲ可トハスル  
ナリ又是等ノ器ニ定制ナシ好ニ竒ヘキモノナ  
リトアルハ勿論ノ事ニテカ、ル雜具ノ類ニ故  
實定制ナト有ヘキ様ナシト知ヘシ便見ノタメ  
左ニ圖ヲ出ス

竹林派弓書ニ  
見タル矢車ノ  
圖ナリ



## 矢取臺

流傳曰矢取臺ハ矢取ノ矢入テ持運フ器ナリ逸

見家ノ書ニ圖ヲ顕シタリ其形タトヘテ云ヘキ

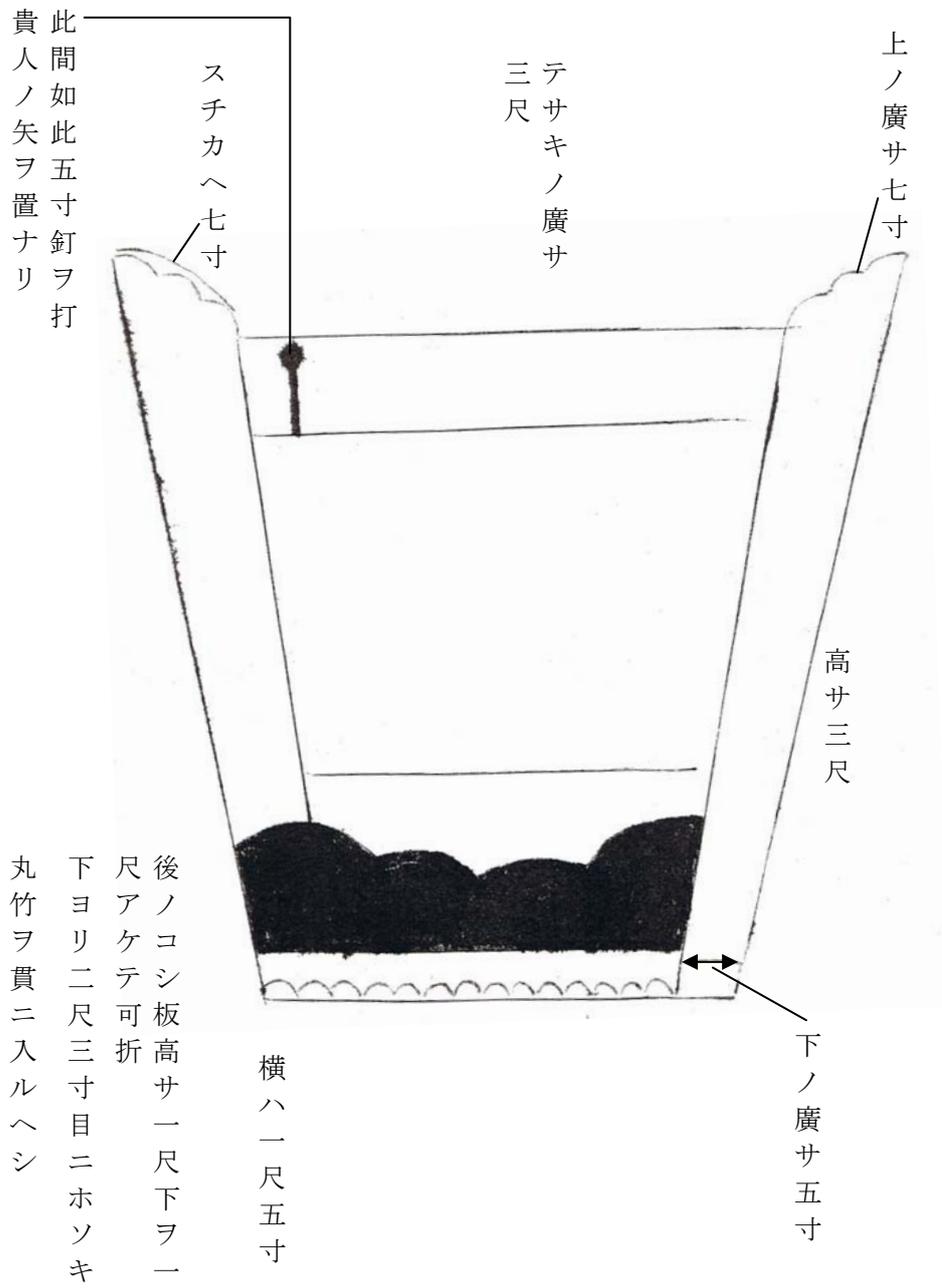
ヤウナシ其圖下ニ出ス武用辨畧ニハ矢取臺凡

矢盤凡云ナリ其圖異ナルヘカラス是レ矢取ノ

中間ノ取扱フ雜器ナレハ定制ナトモアルヘカ

ラス左込骨折テ穿鑿スヘキホトノモノニハ不  
可有時宜ニ任セ何トナリトモ作ヘシ則逸見ノ  
書ニモ捻別矢取臺ハ射手ノ覺悟次第ニテ相更  
ル事有之大形ハ此ノ如シトアリ可考又此物何  
頃ヨリ有シニヤ逸見書ニ矢取臺ニハ巴瀕濱ナ  
トヲ彫付テヨシ是古ヨリノ式ナリト云傳ヘタ  
リト見ヘタリ古トハ何ノ時代ヲ指テ云タル叟  
ニヤ彼家ノ流風ナレハ其本證出所ヲ不記古ト  
斗アリテハ合點ナリカタシ圖ヲ見ルニ古昔ノ  
物トモ思<sup>ル</sup>レス何レ近世ノ好事ノ者ノ所爲ナラ

ンカ知ラン人ニ可尋



流傳曰雜器ノ類右ニ評スル余ニモ人々ノ巧ヲ  
以テ偽作セル伎ナレハ種々無量也是ヲ掲テ等  
ルニ違アラス異制ノ珍器ヲ見テ驚キ附會ノ妄  
談ニ迷ヒ射術ノ本意ヲ失ヘカラス其器ヨリタ  
トヘ實物ト伺フトモ自己ニ試タル上ナラテハ  
真偽究メカタシ此所ノ氣量ハ實事正路ノ修行  
シテ覺悟ノ備タル人ナラテハ會得ナリカタシ  
思惟アルヘシ